

エゾアツ



Grose

2014 夏季号 109

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目 次

2014 夏季号 109

2014年6月26日発行

巻頭言	会長 春日順雄	1～2
総会前の研修会より	谷口勇五郎	3
研修会 (十勝/鶴川/道北/北大苫小牧研究林、オホーツク)		4～6
観察会・活動報告	小樽市 森 隆一	7～9
	札幌市 吉田真理子	10
	小樽市 金澤直美	11～12
	札幌市 室野文男	13
	札幌市 井澤清美	14
	札幌市 自然が大好きコンビ	15
	札幌市 久野 航	16
投稿	札幌市 武田千恵子	17～19
	札幌市 小林英世	22～27
連載	千歳市 宮本健市	20
	苫小牧市 谷口勇五郎	21
自然観察NOW	NO.1 田村允郁	28～29
	NO.2 道場 優	30～31
	NO.3 春日順雄	32～33
下見会の話提供資料	道場 優	34～37
ボランティア・レンジャー	野幌森林公園	
育成研修会の案内	自然ふれあい交流館	38～39
事務局便り		40
編集後記		

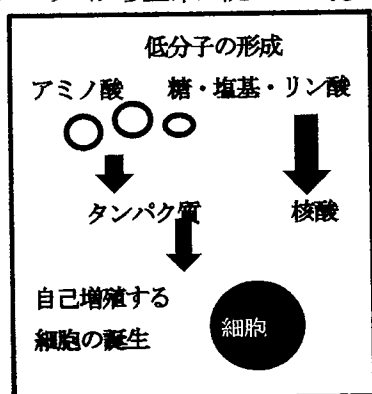
はじめに

地球上に生物が発生してから幾多の艱難が襲います。そのたびに生物は艱難を克服し飛躍をとげます。偶然の賜物ともいえますが、自然の試練です。まさに「艱難汝を玉にす」であります。

生命誕生のころ

「地球は今から約46億年前に誕生した。その後、42億年ほど前から地球表面が凝固し始めたが、39億年前の岩石から、すでに生命の痕跡が見つっている。この様に地球が生命の生存可能な環境になってから驚くほど短い期間で生命が誕生した。生命体を構成するタンパク質や核酸の材料は、当時の大気中の物質から非生物的に合成されたり、隕石によって宇宙から飛来したと思われる。これらが解け込んで栄養豊富な“原始スープ”から生命が誕生した。」

「生体材料は非生物的に準備されていた。地球上で準備されたアミノ酸や糖・塩基などが、“原始スープ”の中で重合し、機能をもったタンパク質などが出来たと考えられる。しかし、原始スープからどのようにして生命が誕生したかは、進化の上で最も興味ある問題だが、まだ解明されていない。」(北大総合博物館の展示パネルから引用)。



この図の自己増殖する細胞には鎖状のDNAが書かれてありました。遺伝はこの時期にまでさかのぼる事が出来るわけです。また、「岩波新書・生物進化を考える」には、「この頃の大気は酸素なし、オゾン層なし、強力な紫外線が降り注ぐ過酷な状況にあった。それが、自己増殖する細胞誕生に効果があったのでは」、とする記述が見られます。

酸素の危機を乗り越った“共生”

この様にして誕生した生物は、核がありませんから原核生物でしょう。生活エネルギーは硫黄化合物の分解によって得られるなど、現在の生物と違います。嫌気性です。酸素に会うと死滅してしまいます。

生命に危機が訪れます。シアノバクテリアの繁殖により海にも大気にも酸素が満ちてきます。この危機を“共生”することで乗り越え、命をつなぎます。

酸素呼吸をするものに入り込んだり、取り込んだりしたのです。

1970年、マーグリスは細胞内共生説を提唱しました。「原核細胞がほかの細胞の内部に入り込んで共生することにより、これらの細胞小器官が生じたとする細胞内共生説を提唱した。ミトコンドリアは、酸素を使って呼吸することのできる細胞が共生したことにより生じ、葉緑体は、シアノバクテリアが共生したことにより生じたとする説である。ミトコンドリアも葉緑体もDNAをもっていることは、これらが昔は独立した生物だった可能性があることを示唆している。細胞内にほかの単細胞生物が共生している例がいろいろ見いだされることも、マーグリスの考えを支持する事実である。」(啓林館高校教科書「生物基礎」から引用)

今の動物と植物の細胞内にはミトコンドリアがあります。酸素を消費しながら有機物を分解してエネルギーを取り出すという生命活動の根幹的な役割を担っています。

大量絶滅を生き残り進化を遂げた生物 大量絶滅ビッグファイブ

「大量絶滅は、地質時代において幾度か見られる現象である。そもそも地質時代の「代」や「紀」の区分は、化石として発見される動物相の相違によるものである。」(ネット・ウイキペディアより引用)

1, カンブリア紀の終わり頃、約5億年前

三葉虫の仲間の大部分が死んだ。

2, オルドビス紀の終わり頃、約4億4千万年前

ビッグファイブの中で二番目に大きく生物種の85パーセントが死滅したと言われていています。その原因の一つは、氷河期が訪れ海退があり海辺の生物が干上がってしまったこと。二つ目は、ガンマー線バーストがあった。これは、大質量の恒星が超新星爆発を起こすことにより放射線であるガンマー線が閃光のように発せられる天体現象で、太陽系近くの恒星に起こったと考えられています。その破壊力はすさまじく、オゾン層を破壊し、地上には強力な紫外線とガンマー線が降り注いだと考えられています。(ネットから)

3, デボン紀の終わり頃、約3億7千万年前

生物種の82%が姿を消したと言われていています。その原因は、寒冷化による氷河形成と海退。低酸素、これは森林が増え温室効果ガスが減少し寒冷化と低

酸素になった。これが、8～10回あったことが知られています。さらに、隕石の落下があります。スエーデンにある直径50kmのシャクレーターは、この頃のものだと考えられています。(ネットから)

4. 古生代の最後の時期であるペルム紀の終わり頃、約2億4千万年前

「これは生物の歴史が始まって以来の最もすさまじい規模のもので、当時生存していた海産動物の種の96%にもおよぶものが絶滅したといわれる。三葉虫もここで完全に死滅し、古生代の幕が閉じられる。」(前掲書P77) その原因は、超大陸パンゲアの誕生にあります。石炭紀後期、ゴンドワナ大陸は北上して赤道付近にあったローラシア大陸と衝突しパンゲア大陸の一部となった。さらに数千万年後、パンゲア大陸は、シベリア大陸と衝突し、地球上のほぼ全ての陸地が一つの超大陸となった。超大陸パンゲアの誕生は、大地震・津波・地球中心部の恒温溶解したものが地上に吹き出すスーパーブルームによる火山の大噴火も起きました。火山の噴火による二酸化炭素の増加は温室効果を持ち、気温が上昇します。温度の上昇でメタンハイグレードが噴出し温暖化がさらに進みます。メタンと酸素が結合し大気中の酸素濃度は低下します。地球上の生物は過酷な環境に遭遇しました。

5. 恐竜絶滅(K・T絶滅)

恐竜絶滅は化石発掘などを通して身近に感じることです。「中生代の終わり(約6500万年前)になって、それまで繁栄を極めていた各種の恐竜はすべて絶滅した。そのみならず、アンモナイトを含め他の多くの動植物がこの時期に急に死に絶えてしまった。」(「岩波新書・生物進化を考える」P81) これは白亜紀と第三紀の境界で起こったのでK・T絶滅とも呼ばれます。

その原因について、アルヴァレは、この時期の地層に地球では稀だが隕石には比較的豊富に含まれているイリジウム濃度が急激に増加しているデータに基づき「小惑星(直径10±4kmと推定されている)が地球にぶつかり、この衝撃のため大量のほこりが舞い上がり成層圏に入り込んだ。ほこりは数年間空中にただよい、世界中に拡がっていった。このため、地上は暗くなって植物の光合成は低下し、食物連鎖の根源が破壊された。そして、恐竜を含む巨大草食性、肉食性動物は絶滅したのである。」(前掲書P81) という仮説を提唱しました。恐竜全盛の頃、恐竜の恐ろしさにおののき、ひっそりと過ごしていたほ乳

類は、K・T絶滅を境に種を拡散させ、新生代を「哺乳類の時代」と言わせしめます。恐竜が座っていた椅子席が、絶滅によって空席になった。今まで目立たなかった哺乳類が、その空席に座り繁栄したということになるでしょう。

「アルヴァレらの小惑星衝突説はわれわれに多くのことを考えさせる。とくに人類の存在が進化的にみるといかに偶然に左右されたかということの意味は重要である。すなわち、コールドターが繰り返し指摘しているように、もしこの小惑星が地球の軌道を横切る時間がほんの20分だけずれたとしたら、それは地球に衝突せず、その結果恐竜の絶滅もなく、哺乳類の大規模な適応放散も起こらず、従って人類の出現もありえなかったと考えられるからである。」

(前掲書P82) まさに、人類誕生の偶然性に感謝であります。

現在、第六の大量絶滅が進行しているのでは、という記述を目にしました。

約12万年前、ネアンデルタール人が出現、クロマニオン人、現在のヒトへと進化します。初期の人類の暮らしは狩猟・採集が中心の石器時代が長く続きます。牧畜を含む農耕が始まったのは、およそ1万年前。現在のヒトの登場もその頃です。地球上の生物環境に大きく影響を及ぼし始めていきます。1万年は、地球の歴史のスケールで考えると短い時間です。短い時間に地球上のあらゆる環境が大変化した。これが、第六の大量絶滅と言われることでありましょう。

39億年前、地球に誕生した生物の命は、天変地異による大量絶滅などという大きな試練を受けながら、現在に命をつないでいます。

ビッグファイブは天変地異が原因です。第六の大量絶滅は人為です。ビッグファイブの後には必ず次を担う生物が出てきています。第六の大量絶滅は、ビッグファイブとは違うと感じます。それは、これからはヒトは主役であり続けるだろうということです。ヒトが生きて生活していくことと、地球上の全生物の命を引き継ぐことについてのヒトの役割・ヒトの責任は大きい。

参考としたもの

- 1、「生物進化を考える」岩波新書
- 2、啓林館の高校教科書「生物基礎」
- 3、Life Nature Libraryの「進化」
- 4、北大総合博物館・ネットなど

谷口勇五郎さんの冊子「自然ガイド」から

総会前の研修会において会員でもある谷口勇五郎さんが「自然ガイドをしていること」と題して講演、また観察会で役立つ冊子をまとめるなど大変参考になりました。その冊子の中に“観察会のリーダーの心得”を書いた部分があります。改めて心得を肝に命じましたのでご紹介したいと思います(広報部)。

【観察会のリーダーの心得】

- 1、「専門分野でないので分かりません」は学者の世界でしか通用しない。自然解説者としては失格、知らないことは知らないとして、知っていることを正確に、分かり易く丁寧に解説する態度が大切である。
- 2、解説者は現場管理者でもある。解説技術だけでなく、リーダーシップ、安全管理を一人で行う、参加者の表情・態度から、解説の反応を読み、柔軟に対応する。
- 3、参加者のレベルとニーズを知る。「テーマ」とは別に胸に秘めた目的を持って参加している。解説者の独りよがりの解説では、参加者の興味や熱意を失わせる。
- 4、参加者と常に正面から向き合う姿勢が信頼を呼ぶ。参加者のレベルに合わせて分かり易く、ときには「分かりません」や、「疑問符を投げかける」。など
- 5、自分の体験からの解説が一番の興味を呼ぶ。質問され上手。聞き上手。
- 6、立て板に水、洪水のような知識の披瀝は参加者を委縮させ、楽しさを奪う。「こんなことも分からないのか」の表現や態度は観察会をぶち壊す。
- 7、参加者はそれぞれの生活の場で、社会的な地位や自尊心を持っています。難しいだけで面白くない、高圧的で自尊心を傷つけるようなことは、タブーです。自然に関心を持った参加者へのもてなしと感謝の気持ちで対応する。
- 8、自主性・主体性を尊重する。特に感動的な場面では、説明は後回しにして余韻に配慮するぐらいが適当。リーダーが先に気づいてもあえてこちらから教えない事も技術の一つ。質問に「いいところに気付かれましたね」と全体への話題にする。
- 9、ちょっとした心遣いも大切。スコープのセットで三脚を身長の高い人に合わせておく。参加者に対して逆光の位置に立たない。
- 10、安全対策の心得…安全に対する指示や注意は常に必要。切り傷・擦り傷・虫刺されなどに対する救急箱(チェック)は携行する。発病や重大事故の場合は、手当てと同時に救急車の手配が大切。
- 11、リスクマネジメント…動物→クマ・スズメバチ・マムシ・ダニ。植物→ツタウルシ・ヤマウルシ・トリカブト。怪我→転倒・切り傷・捻挫・骨折。その他→道迷い・雷…リスクを知ることが安全につながる。足元や頭上の注意を常に促す・決して急がせない・両手を開けておく・双眼鏡は首にかけさせ、手に持たせない。
- 12、事前に注意①先頭より先に行かない②走らない③黙って列を離れない④道からはみ出ない。
- 13、まとめは簡潔に、しかし、できるなら参加者全員に出番を。

研修会のお知らせ

<十勝研修>

I、期日 平成26年7月5日(土)～6日(日)

II、目的 嵐山周辺の自然観察

III、研修日程

第一日目 13:00集合 国民宿舎「新嵐山荘」
河西郡芽室町中美生2線42
13:30～4:30 周辺を散策・自然観察
14:30～16:00 研修 (新嵐山荘)
16:00～18:00 夕食準備など
18:00～ 夕食・懇親会

第二日目
9:00～11:00 嵐山の自然観察
12:00 松久ニジマス園でおいしいソバの昼食
帯広で初夏の野草園観察・百年記念館
14:00 解散

IV、宿泊 めむろ新嵐山オートキャンプ場コロポックルの里

V、持ち物 寝袋、その他宿泊に必要なもの。虫対策

VI、参加費 4,500円

<鶴川研修>

I、期日 平成26年7月11日(金)～12日(土)

II、目的 平取温泉付近の自然観察と鶴川河口の人工干潟の草刈り

III、研修日程

第一日目 13:00集合 「びらとり温泉 ゆから」駐車場
沙流郡平取町二風谷94番地8
13:30～16:00 平取温泉付近の自然観察
16:00～ 自由行動
18:00～ 温泉隣りにあるレストランで夕食・懇親会

第二日目 9:00集合 鶴川「四季の館」駐車場
9:00～12:00 人工干潟の草刈り

IV、宿泊 二風谷ファミリーランド バンガロー利用 ☎ 01457-2-3807

V、持ち物 寝袋、その他宿泊に必要なもの。鎌。軍手。長靴。作業着。

VI、参加費 3,000円

<道北研修>

- I、期日 平成26年7月19日(土)～20日(日)
- II、目的 大雪山の自然を学び、高山植物を観察しよう
- III、研修日程
- | | | |
|------|-------------|----------------|
| 第一日目 | 14:00 集合 | 黒岳ロープウェイ駐車場 |
| | 14:30～16:00 | 研修(層雲ビジターセンター) |
| | 18:00～ | 夕食・懇親会 |
| 第二日目 | 7:00 | 出発 |
| | 10:00 | 黒岳頂上 石室周辺を植物観察 |
| | 14:00 | 下山開始 |
| | 16:00 | 解散 |
- IV、宿泊 層雲峡オートキャンプ場を予定 上川町清川
- V、持ち物 寝袋その他宿泊に必要なもの。予備食。雨具など軽登山に必要なもの。
- VI、参加費 未定

<北大苫小牧研究林>

- I、期日 平成26年8月23日(土)
- II、目的 胆振地区会員と交流を図りながらの自然観察会
- III、研修日程
- | | |
|-------------|-------------|
| 10:00 集合 | 北大苫小牧研究林駐車場 |
| 10:00～14:00 | 林内の自然観察会 |
- IV、持ち物 昼食
- V、参加費 無料。申し込み不要。
- VI、交通 JR苫小牧駅前バスターミナル、道南バス1番「苫小牧営業所行き」9:12発
「美園小学校前」9:27着。徒歩30分(約2km)

ボラレンでは初めての観察地でもあります。1904年開設(札幌農学校)。樽前山の1667年、1739年噴火の火山灰(1～2m堆積)の上にある。2715ha。このうち人工林が25%、残りは落葉広葉樹の天然林で、樹木100種、草本230種以上生育。林内を流れる幌内川は2001年日本一綺麗な水に認定され、市の水道取水施設もある。野草園、樹木園、灌木園、森林資料館など併設されている。

この地区に詳しい谷口勇五郎さんのご案内です。胆振地区会員及び会員皆様の参加を期待します。

各位

北海道ボランティアレンジャー協議会
オホーツク支部長 和泉 勇

平成26年度オホーツク支部秋季研修会について

(ご案内)

日頃より、当支部活動にご支援、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきまして下記の通り開催いたしますので、お誘い合わせの上、多数ご参加下さいます様ご案内致します。今回は、日本最大の黒曜石産地として名高い白滝の黒曜石露頭の現地2箇所を、役場のご協力を戴き視察いたします。

記

- 1、日時 平成26年9月6日(土)～9月7日(日)
- 2、集合場所 遠軽町白滝総合支所前
紋別郡遠軽町白滝138番地1 ☎ 0158-48-2213
- 3、宿泊先 「セトセ温泉ホテル」
紋別郡遠軽町湯の里(瀬戸瀬温泉)
☎ 0158-44-2021
- 4、日程等
9/6(土) 13:30 集合
14:00～16:30 現地研修 白滝ジオパーク黒曜石ツアー
①「あじさいの滝露頭」コース
18:00～焼き肉等による夕食懇親会

9/7(日) 6:30 起床
7:30 朝食
8:00～現地研修出発
9:00～11:30 現地研修 白滝ジオパーク黒曜石ツアー
②「赤石山山頂」コース
12:00 現地解散
- 5、持ち物 野外活動に必要なもの・洗面用具・バスタオル(浴衣・タオルあり)
- 6、負担金 1名5,000円(夕朝食・宿泊代・懇親会費)
現地研修は専用車で行きます。ホテルでの食事は自炊となります。
- 7、申込み期日 8月30日(土)
- * 連絡先 網走市潮見5丁目122-15 (☎・FAX0152-43-1942)

ボラレン・オホーツク支部事務局 ほしと はるき
法 師 人 春 輝

E-mail hyes-2012-3781@qb3.so-net.ne.jp

超人達との春香山

小樽 森 隆一

平成26年3月29日（土） 快晴 気温8℃

これ以上は無い晴天に恵まれて、集合場所のラルズ桂岡店から参加者26名が4台の車に分乗し、住宅地に隣接する登山口から出発です。

住宅地のすぐ裏は、深山の雰囲気桂岡の方々に山好きが多い理由が解る気がします。

晴天とは裏腹に、私はこの日を少々不安を持って迎えました。

リタイアを期に5年前、小樽野草愛好会に入会いたしました。年々野草の奥深さや、愛好会諸氏の人柄、ひた向きな自然への親しみ方に感化されてきました。当初は、野草観察の山歩きが精一杯、私よりはるかに年長の方々に体力を心配してもらう、情けない会員です。

去年は、小学6年生の孫とニセコアンヌプリに挑戦してきましたが、下山時に頭上を飛んでいるカラスを羨ましく思ったひ弱な私が、スノーシューの魅力に取りつかれました。小樽築港臨海公園の無人の雪原を、自分だけの足跡を残しながらの散策が、幸せな日課となり、2月22日ポラレンの穴滝観察会へ向けてのトレーニングにも励みました。

更に、野草愛好会の林東洋さんが主催する銭函天狗山登山、朝里旧軍事道路周辺の散策、石倉山縦走に参加“ツムラの芍薬甘湯68”の助けを借りながら、なんとかクリアしてきました。しかし、春香山は地図を見ると距離は今までの倍、等高線も狭い、内腿や膝が悲鳴をあげないか？

しかし、これをクリアすると自信になる。不安と希望を抱いての参加でした。



先導は、見るからに屈強な天狗山おこばち山荘の工藤さん、地球や岩石のお話が楽しい北嶋支部長、樹木、お花の大家、北原野草愛好会々長、しんがりはヒマラヤ経験者の福田さん、“こんな贅沢な同行者との山行で300円とは”と下世話な事を思いながらの出発です。

春香山が初めての方との呼びかけに、私を含めて2名が挙手、見渡すと経験豊富そうな山男、山女ばかり。最初は、ツボ足でしたがすぐに工藤さんの後方女性が、隠れていた水路の空洞に足が埋まり、号令一過スノーシューに履き替えました。



春一杯の日差しは、「汗は冬山の大敵」のアドバイス通りジャケットを脱ぐほど心地よいものでした。緩やかな勾配や多少のアップダウン、ラッセルの無い行程は実に快適です。スノーシューは、雲の上を歩いている様なゆったりとした感触で、自然を観察したり、音楽を聴きながら、それに妄想しながら散策するにはぴったりで（余裕のある内だけですが・・・）嵌っています。雪の上には、枯れ落ちたツルアジサイとイワガラミの花ぐらいいましたが、中身の濃いレクチャーを受けました。（それぞれの装飾花や果実の相違点）

風の通り道と言われた林道は、確かにここだけ涼しい。
疲労と空腹を感じ始めた頃、もうすぐ銀嶺荘で昼食との事、ほっとした間もなく目の前に突如、春香山が表われる。

急峻な山容にまさかこれを登る！
撤退も勇気と銀嶺荘で留守番と相成りました。昼食後、ほとんどの参加者が山頂にアタック、彼らにしてみるとアタックなどと言う仰々しい事ではなく散策の延長に感じます。



私には超人としか思えない70代、80代の山男、山女達に囲まれて、来
年古希を迎える事にネガティブな自分に大喝です。帰路は下りでペースが速
い、皆さん登頂の疲れも感じさせない黙々の下山。

見慣れた、なだらかなお椀形の銭函天狗山が、ここ春香山側から見ると角
ばった鉤形の、存在感のある山容に驚く。

北原さんよりニレ、ミズナラ、ケヤマハンノキ、サワシバ、マユミ等のレ
クチャーを受けるが、その特徴を何度聞いても覚えられない、そろそろ覚え
なければ……。登頂は出来ませんでした。後味の良いとても幸せな一日
でした。ポラレンの皆様、御苦労さまでした。ありがとうございました。

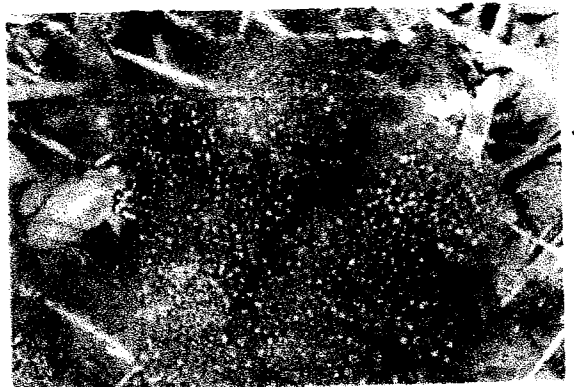
『春の花を見つけよう』に参加して

吉田真理子

平成 26 年 4 月 24 日 (木)、この日の天候は晴れ、日中の気温が 21.8℃とポカポカ陽気の札幌参、参加者の方が 121 名と少し圧倒されながら 1 班 8 名で午前 10 時にエゾアカガエルが「キャラララ・キャラララ」と鳴く方へ自然ふれあい交流館を出発、すぐ前にある池でその姿を柵ごしに確認し満足！池横のエゾツバコヤナギの雄花・雌花の説明を聞きつつ、ふわっと感が春だよと出迎えてくれたよう気がした。そして大沢口の入り口から青紫のエゾエンゴサクや黄色い花をつけたナニワズが控えめに、そして福寿草が晴れの日には“私よ！”と自己主張するかのように黄色が輝やいている。林の中は残雪の残る沢沿いにゴルフボールより小さい赤茶のザゼンウや小豆まめを思わせるエンレイソウが咲き小ささに感動し、その近くにはべこのした(牛の舌) = 白い水芭蕉が水の中で存在感をアピール？春の芽吹きを始めた植物の中であちこちにふきのとうも猛アピールしているようだ・雌株・雄株の見分け方を聞きつつ口の中にはそのほろ苦さが思い出され、所々のタラノキも気になっていると、シウリザクラの木が多くお話を聞きながら咲いている時を想像し、また、ここを訪れたくなった。さらにクスサンの空の繭が見て冬を越えてそこにあることに驚いているとトンボを発見！！越年トンボと教わり、またまた驚き。大沢口に戻りかけの明るい林でウグイスの鳴き声に清々しい気持ちで歩いていると道脇の溝にエゾアカガエルのおびただしい数の卵を発見、今まさに産卵している(下部写真)必死なその姿に圧倒されつつ、ふと約 30 年前、部活で大学から百年記念塔まで走っていた日々、大沢口付近は今より家も少なく道も整備されてなかったような気がしていて、入り口付近の道脇の水溜りにごの数倍の卵&おたまじゃくしや道を横切るへび(青大将?)にたま〜に出会った事等を思い出しつつ、

12:30 観察会が終了

今日の感動と出会いに感謝申し上げます。



“ViVa！ 観察会！”

小樽 金澤直美

額絵にも似た英峻な岩壁、澄んだ海原を背景に満開の山桜……、
加えて可憐な野の花々も十分に愛でる事が出来、また笹やぶを抜ける時は、鶯
の鳴き声も興を添えグレードアップされた「赤岩山自然観察会」となりました。
毎年恒例の行事ですのに、毎回新たな印象が残ります。

44名が4班に分かれ、班毎に2名ずつボランティア・リーダーと補助者が
付き、学習と保全の為に配置されました。配布された赤岩山自然観察会の地図
を手に44名が登り下りする様子は、空から眺めると長蛇のウネリにも似てさ
ぞかし壮観だろうな……等々想像をふくらませながら一足一足歩を運びま
した。一列歩行ですから追い越し禁止ですが、ボラレン解説者の興味、関心の
度合いで班毎の間隔に微妙に差ができます。

樹医のような北原武さんは、愛しそうに木肌を触りながら、参加者にもその
感触を確かめさせながらの学習ですから、当然その説明は長くなります。

北原武さんは、平成21年11月に「前田一步賞」を受賞された事をパソコ
ンで知りました。遅れましたが、おめでとうございます。

キハダという樹木は、樹皮をそぐと木肌が黄色、にが味がある味との説明に
心魅かれ舐めてみました……“良薬は口に苦し”即、名言が浮かびました。
胃腸に良く効くそうです。背後から「俺も今、舐めたばかりだぞ！」の声に
「ア〜〜」と思いましたが……遅かりし……でした。

先人達は、獣道を通り薬草等で病を整えながら、旅を続けたのだろうと考え
ると、各地に存在する「塩の道」、「鯖街道」、「〇〇街道」の由来が理解できそ
うに思えます。

B班担当の山本さんは、小樽市総合博物館の学芸員さんです。

「すみれ」にも土と育ち方により様々な顔がある事、オタモイ、赤岩山は「す
みれ」の宝庫でもある事を教えて下さいました。注意して観察すると、花芯が
異なっているのが解りました。又、「オオウバユリ」か思った群落は「バイケン

ウ」で背丈が伸びるとより葉脈がはっきりしてくる事や「オクエゾサイシン」等々。「これが雄花で花粉がね・・・」との説明も、何しろ一列ですから班の後部まで届けるには電報ゲームです。

とうとう「ヘーゼルナッツのような実・・・」が「えー、ハーゲンダッツに似ているって?!」と返ってくる始末。植林地帯の松林の下りでは「ん?!白松が最中?!」カラマツ、トドマツ、の説明が最中になりました。

さぞや、山本先生お疲れだった事でしょう。

途中、笹の葉に縫い目模様のある葉を見つけました。いつもの行程なら、かならず話題にする、熊撃ちに似た自然の村の“工藤村長さん”、出番なのに・・・と振り返りましたが説明の様子がありません・・・やはり天狗山でなければ駄目なのか・・・と考えたりしました。

昼食後、梅原さんのカラスの話でスタート。

ハシブト、ハシボソカラスの違いについて絵図を提示して下さり、その生態について学びました。今朝も「土」でカラスと戦ってきた私には生々しい程、勉強になりました。カラスの視力について知りたい・・・と考えているうちに、講師は山本学芸員さんの「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」誕生の秘話へと。

故安達与五郎市長さんの尽力で、今の赤岩山周辺景観を保つ事が出来たと、ご遺族が保管された資料より分かった事や、町を思い愛する気持ちが国を動かし認定までの苦勞された経緯が、故安達市長さんのお顔と重なります。

屋久島旅行から戻った知人は、「小樽って魅力あるね、まだまだ知らない個所が有るもの」と言っていました、私も同感でした。

「繰り返される風化と浸食で、赤岩山の岩塔や岩壁の変化はまだまだ続きます」との、北嶋支部長さんの講話で観察会は終わりましたが、学習内容が盛り沢山の素晴らしい山行でした。自身の記憶をたどるのも難しい年代になりつつありますが、自然に対する感動だけはいつまでも持ち続けていたい・・・と考えます。

ボランティア・レンジャーの方々、大変ありがとうございました。

セイヨウオオマルハナバチの防除

室野文男

ボラレンのセイヨウオオマルハナバチ防除への参加は、平成 20 年（2008）度総会時の研修会において北海道環境局自然環境課セイヨウオオマルハナバチ特定生物グループ主任富樫崇氏が「セイヨウオオマルハナバチバスターズについて」の講演が行われ、一部の会員はこれに即座に対応、参加した。

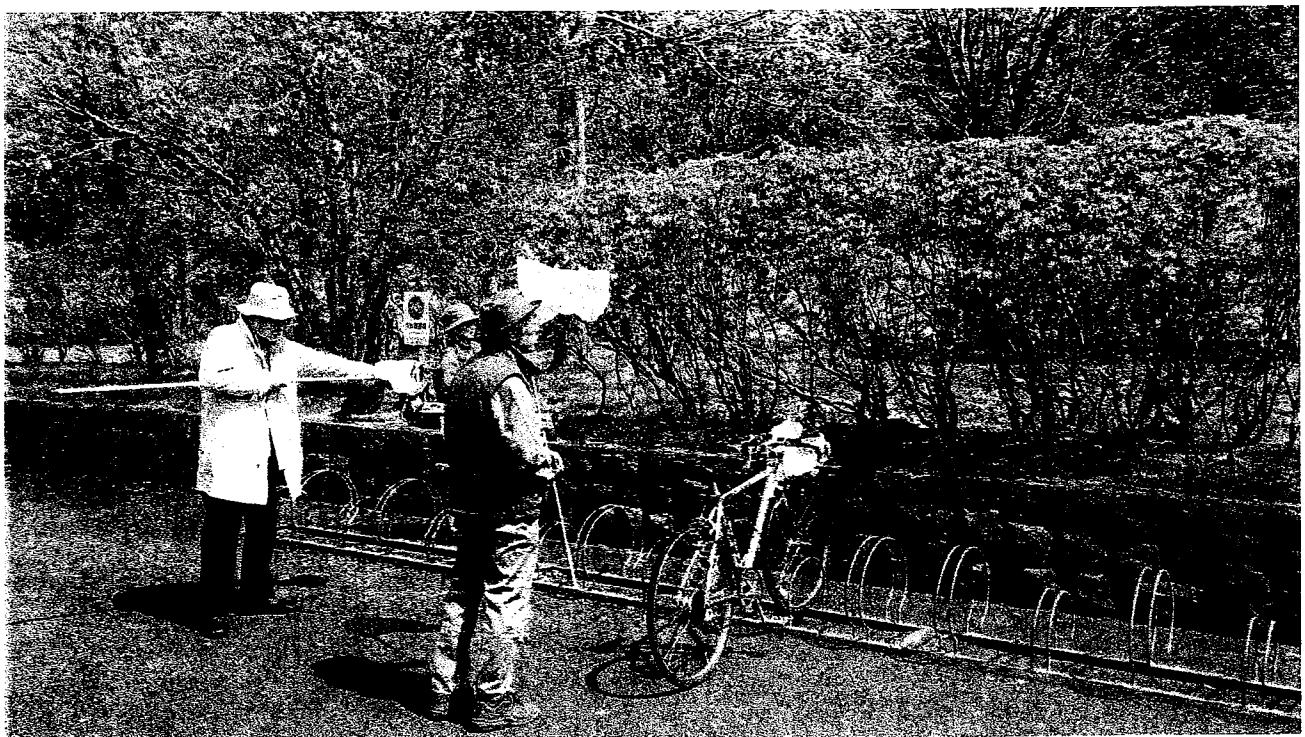
ボラレンの事業として外来生物の防除活動を行うようになったのは平成 21 年（2009）5 月 17 日、セイヨウオオマルハナバチの防除研修を、開拓記念館の堀繁久氏を講師に招いて行ってからである。

平成 22 年度は 4 月 25 日に恵庭公園で防除事業を行う予定であったが花の開花がないため中止

平成 23, 24 年度は開拓の村入口のエゾムラサキツツジにて実施、平成 25 年度はエゾムラサキツツジの開花が遅れたため中止、本年度は開花が早く、花も終わりに近かったが実施したが、風が強く外来種のハチが少ないため時間を切り上げ終了した。参加者は 10 名、時間内の成果は 1 頭だけであったが本年度のこの時期のハチ駆除数は 7 頭でした。

セイヨウオオマルハナバチの防除は花の開花状態と気温に左右されイベントの日を決めてもハチを捕獲できる補償はない。防除の時期は春先の女王バチの捕獲がよいとされていて、これ以降になると小さなはたきバチになり効率が悪くなる。

本年度は 1 時間に 10 頭という数は捕獲できなくなって、1 時間に 2~3 頭がいいところで、いままでの捕獲の成果がでたのか在来種の数が多く、セイヨウの数が少なく感じられる。



春のありがとう観察会に参加して

札幌市北区 井澤 清美

観察会名：春のありがとう観察会 日 時：2014年5月11日（日）

この日は「最高気温25℃、晴れ」の予報通り絶好の自然観察日和となりました。ふれあい交流館駐車場に着いたら早速ウグイスがホーホケキョと大声で迎えてくれました。

観察会の参加者は30人以上。コースは交流館を中心に百年記念塔、開拓の村、瑞穂連絡線を巡るコースAとエゾユズリハ、四季美、桂コースを巡るBコースの2コースで、ゴミ拾いを兼ねた自然観察が観察会の目的でした。5~6人が1グループとなって各コースに分かれて回ることに。私はBコースに。

季節は今まさに春本番。解説者から聞いた植物はヒトリシズカ、ニリンソウ、レンブクソウ、ネコノメソウ、スマレ類、エンレイソウ類、ツバメオモト、エゾノリュウキンカ、クルマバツクバネソウ、ルイヨウボタンなどでエゾエンゴサクやフクジュソウは花期を過ぎていました。鳥の間ではヤブサメ、ミソサザイ、ゴジュウカラ、キビタキ、センダイムシクイ、クマゲラなど。

この中でニリンソウは、実は花卉に見えるのは萼片であり数に変化が多いこと。また帰って調べると茎葉は無柄で根生葉には長い柄があり葉同士が重ならないことを知りました。ニリンソウがスプリング・エフェメラルであるとの説明がありましたが貴重な春のエネルギーを少しでも無駄にしない仕組みに感心しました。また、図鑑でしかみたことのなかったミドリニリンソウにも出会うことが出来ました。

季節的にはザゼンソウは花の季節を終え葉が勢いよく伸びていましたが、ここでオオウバユリとの違いが葉脈にあることを教わりました。季節がもう少し後になればオオウバユリは茎立ちしてくるので間違わないのですが、この時期確かによく似ていました。

またこの季節、ユリ科のエンレイソウも主役の一つ。ユリ科は3を基本としておりエンレイソウは萼片3だけなのに対してオオバナノエンレイソウは花卉3、萼片3からなることを教わりました。雄しべは両方とも6本。

一方、木々の葉が少ない今は小鳥の観察にはもってこいの季節ですが、残念ながら私にはクマゲラ以外はそのままの正体を確認できませんでした。

ほぼ4時間かけて約5.7kmのコースを気持ちよく自然に身を任せた観察会でした。また、もう一つの目的のゴミ拾いの方は日頃の皆さんの指導方よろしくゴミは全くありませんでした。本当に楽しい一日でした。ありがとうございました。

芸術の森散策に初参加して

5月18日 「芸術の森観察会」

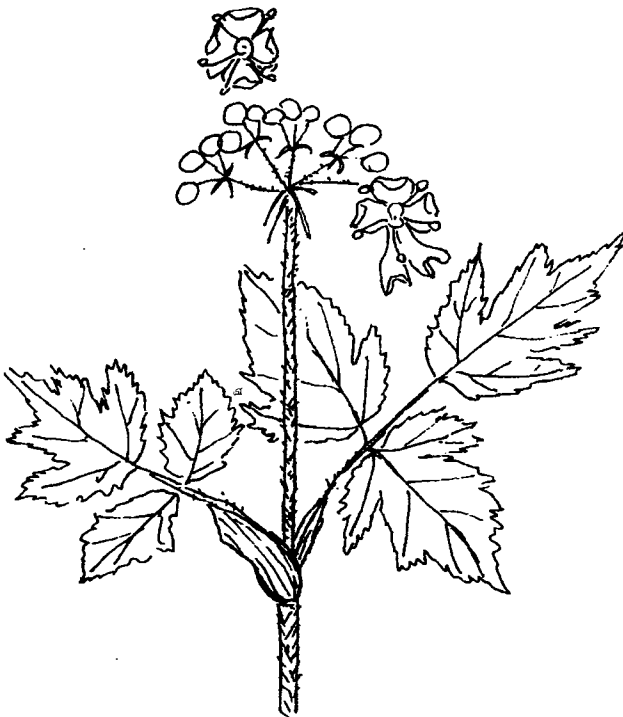
札幌市東区 “自然が大好きコンビ”

一昨年位から当会の行事には関心を持っていましたが中々スケジュールが合わず今回初めて参加させていただきました。

どのような集まりなのか多少不安はありましたが、季節が逆戻りしたかのような冷たい雨の降る朝でしたから意を決して出掛けました。皆さん周知のお仲間の中、朝のご挨拶では会の雰囲気を感じさせるロマンチックなゲーテの詩、モーツアルトの歌曲のお話を聞き、小雨の中を散策するのも又趣のあることだと感じました。何時も何気なく観、通り過ぎている樹木や草花にも知らなかった事が沢山あり尽きることが無い様で、危うさもある自然の宝庫の森を散策しました。

歳を重ねる毎に外遊びが好きになってきた私達、イヤラウンドウォークも楽しむ二人ですが草花の知識の豊富な方々と一緒に歩くのも楽しいものですね。先生の分かりやすく興味津々な説明、時の経つのも寒さも忘れるほどでした。

最後に「もう飽きたでしょう」と言われましたが「いえ、いえ、飽きるなんて」もっとお話聞いていたかったです。ありがとうございました。自然に優しい人は人にも優しいですね。スケジュールが合えば又ご一緒させてください。



ボランティア・レンジャー育成研修会 2014

今年は9月26日(金)～28日(日)、野幌森林公園ふれあい交流館で開催されます。この機会に皆で協力して“ボラレンの輪”を広げたいと思います。

(広報部)

雨もしたたる植物観察会

— 野幌森林公園「森の新緑観察会」に参加して —

札幌市 久野 航

6月8日、天気はあいにくの雨でしたが、集合場所の野幌森林公園自然ふれあい交流館には30余名の方が集まっておりました。

観察会は2時間で園内を約3km散策すること。人数と天候のことを考えると、「これはきっと解説の声が聞きづらいだろうな」と不安に感じていたのですが、当日はボランティアガイドの方も多く参加しておられたようで、結果として3人につきガイドさんが1人つくという贅沢な観察会となりました。

園内を歩いていて見かける植物は見慣れた種が多かったですが、ガイドさんが種名や特徴の紹介にとどまらず、その種の名前の由来や、かつての用途などについても丁寧に解説してくださり、今まで当然のように知っていた植物を、とても新鮮な気持ちで観察することができました。



↑サイハイランは花の形を戦場で指揮をとるのに使う「采配」に見立てて名付けられたのだそうです。

また、ガイドさんは、「植物は自分で名乗るわけではなく、すべて人間が名前をつけている。だ

から名前には意味が込められている」ということを仰っており、名前の由来をはじめとしたその植物にまつわる物語を知ることによって、表層的な理解にとどまらず、一步踏み込んだ植物との付き合い方ができるのだと実感しました。

もうひとつ印象的だったのは、同じ班で行動していた女性が、「雨が降ると植物たちがうれしそうね」と仰っていたことです。

私は観察会開始前より明らかに強くなってきている雨に、「靴も汚れるし、メモもとりにくいし、これはまいったな」などとぼやきながら歩いていたので、その女性の感性には、はっとさせられました。そんな折、傘を少し傾けて頭上を見ると、雨粒を浴びながら空に向かってホオノキが美しい白い花を咲かせており、確かに捉え方によっては植物は嬉しそうで、晴れの日とはまた違った趣きを感じられました。

雨の日はどうしても家に閉じこもりがちですが、森のなかではいろんな生きものたちが元気に活動していて、晴れの日には感じられない多くの魅力が隠れているのでしょう。

今回、野幌森林公園を散策するのは初めてでしたが、世界でも数少ない都市近郊型の大規模な自然公園ということで、アクセスもよく、散策コースも豊富にあるので、晴れの日も雨の日も、四季を通して訪れたいと思える素晴らしい公園でした。

野幌森林公園における指定植物・レッドリストに該当する植物

札幌市 武田千恵子

1. 指定植物

道立自然公園である野幌森林公園には道立自然公園条例に基づく指定植物が定められています。これは特別地域に限られますが野幌森林公園は2,053haあり、このうち普通地域142haを除く、1,911haが特別地域です(約93%)。このうち、国有林は77.8%を占めています(開拓記念館 後藤氏)。つまり野幌森林公園のほとんどが特別地域で許可無く指定植物を採取・損傷すると、6ヶ月以下の懲役又は50万円以下の罰金に処せられるとあります。

野幌で該当するのを下記に載せます。種名は条例の順にならい、北海道新聞社の自然ガイド野幌森林公園 村野紀雄 植物チェックリスト pp121-132 より拾いました。シダはまとめました。

シダ植物	ホテイシダ
ミクリ科	タマミクリ・ミクリ
ヒルムシロ科	ヒルムシロ・オヒルムシロ
オモダカ科	ヘラオモダカ・サジオモダカ
イネ科	ササガヤ・エゾノサヤヌカグサ・タチイチゴツナギ
カヤツリグサ科	ビロードスゲ・カミカワスゲ・アゼスゲ・オニナルコスゲ
サトイモ科	ミズバショウ
ミズアオイ科	ミズアオイ
ユリ科	ツバメオモト・スズラン・クロユリ・ゼンテイカ(エゾゼンテイカ)・クルマユリ・コウライワニグチソウ・オオバナノエンレイソウ・シラオイエンレイソウ・エンレイソウ・クロミノエンレイソウ・アオミノエンレイソウ・シロバナエンレイソウ(ミヤマエンレイソウ)
ラン科	キンセイラン・サルメンエビネ・ユウシュンラン・アオチドリ・サイハイラン・トケンラン・ツチアケビ・アケボノシュスラン・ヒメミヤマウズラ・ミヤマモジズリ・ジガバチソウ・クモキリソウ・スズムシソウ・フタバラン(コフタバラン)・サカネラン・タカネトンボソウ・ミヤケラン・オオヤマサギソウ・トンボソウ
タデ科	エゾノミズタデ・サデクサ・ノダイオウ
ナデシコ科	タチハコベ(エゾフスマ)
スイレン科	コウホネ
キンボウゲ科	エゾトリカブト・フクジュソウ・フタマタイチゲ・キクザキイチゲ・アズマイチゲ・エゾノリュウキンカ・クロバナハンショウヅル

ボタン科	ヤマシヤクヤク
ユキノシタ科	ウメバチソウ・エゾクロクモソウ
バラ科	クロミサンザシ・ホザキシモツケ
マメ科	モメンヅル・センダイハギ
スマレ科	オオバタチツボスマレ・アイヌタチツボスマレ
ヒシ科	ヒシ
アカバナ科	チョウジタデ
イチヤクソウ科	ベニバナイチヤクソウ
サクラソウ科	ハイハマボッサ
リンドウ科	エゾリンドウ・フデリンドウ・ホソバナツルリンドウ・アケボノソウ
シソ科	エゾナミキソウ (オオナミキソウ)
ナス科	ヤマホロシ・オオマルバノホロシ
ゴマノハグサ科	ミヤマママコナ・エゾクガイソウ
ハマウツボ科	キヨスミウツボ
アカネ科	エゾムグラ・キバナカワラマツバ (カワラマツバを含む)
キキョウ科	ツリガネニンジン・サワギキョウ
キク科	ノコギリソウ・マルバヒレアザミ・エゾムカシヨモギ (オクムカシヨモギ)

2. 次に北海道レッドリスト 2001 年に該当する種を下記に記載します。同じく北海道新聞社の自然ガイド野幌森林公園 村野紀雄 植物チェックリスト pp121-132 より拾いました。

絶滅危機種 (Cr)	クロミサンザシ・サカネラン
絶滅危惧種 (En)	キンセイラン・サルメンエビネ・ユウシュンラン
絶滅危急種 (Vu)	エゾノミズタデ・フクジュソウ・ハイハマボッサ・ミズアオイ
希少種 (R)	エゾエノキ・サデクサ・フタマタイチゲ・クロバナハンショウヅル・ヤマシヤクヤク・ミヤマママコナ・キヨスミウツボ・クロユリ・コウライワニグチソウ・ササガヤ・キタササガヤ・ミクリ・フタバラン

以上ですがこの本のチェックリストは過去の文献をまとめたものであり、同定違いもあると思います。また自然災害・工事・踏み荒らし・盗掘などで現在では見られない種も入っていると思いますし、新たに該当する種が見つまっていると思います。最近の調査がないのを残念に思い、一念発起してシダ・カヤツリグサ科は調査結果を出しました。イグサ科とミクリ科は今年まとめようと思っています。いずれ会報に載せていただきたいと思っています。私のミスで抜けていましたら教えてください。

その他に野幌の名前のついたノッポロガンクビソウや公園内で希少な種も保護すべきと思います。もちろん、全ての植生が大事なのはいうまでもありません。さまざまなバランスでなりたつ

ていると思いますし在来の多様性が損なわれるのは問題です。

なぜこのような記事を書いたのか理由があります。

ひとつは草刈です。シダの仲間ですが稀にしかないのに、根こそぎ丁寧に刈られてしまったため、無くなってしまった所があります。シダは地上に来年の芽を用意しているのが大半です。以前アケボノソウでも同じことを聞いたことがあります。指定植物やレッドリストに載っている種もあり路肩の植生に配慮した草刈が必要と思います。

もうひとつは去年終わった工事ですが、2年越しで中央線の大麻高区配水池からトドヤマロにかけて石狩東部水道企業団の配水管の取替え工事がありました。耐震性の強い配水管に代えたのです。事前に石狩森林管理署や北海道開拓記念館 総務課に設計図を出したそうですが30年前と同じ工事をしたそうです。結果ほぼ道路いっぱい砂利が30センチの厚さで積まれました。その砂利の中から指定植物が顔を出していました。砂利の極近くにも指定植物のサイハイランやホソバノツルリンドウがありました。板止めなどがなかったため砂利が崩れると下敷きになります。30年前には問題にならなかったかもしれませんが、砂利を撤去してもらおうようお願いしましたが元には戻りません。この指定植物がなければ早急な撤去はなかったといえます。予算がつけば砂利を撤去するという話でした。その後の第二期工事では路肩の植生に配慮してくれるよう強くお願いしましたが、事前の説明とかなり違っていました。例えば11月末に指定植物のサイハイラン2株を工事の邪魔になるということで許可無く移植し、始末書を書いたそうです。それも春になってみると枯れていました。専門家にお聞きしたら、移植時期が悪すぎるということでした。また、遊歩道のほぼ真ん中を配水管が通っていると説明を受けましたが、実際は路肩近くでした。期限が迫っているとのことで路肩の植生に対する配慮よりは工事優先でした。残念なことです。この後この配水地から各家庭に送られる水道管の取替え工事があるそうです。江別市の工事になると思いますが路肩の植生に配慮していただきたいと思います。

遊歩道に砂利を積んだということは前にもあったそうです。このことから自分が野幌森林公園のお客さんに過ぎなかったと反省しました。ほぼ3年ごとに転勤のある行政に任せきりではいけないと。石狩森林管理署や開拓記念館に道から出向して管理にあたっていた方は植物の名前を御存知ないようでした。ボラレンの活動は大沢口が多いのでなかなか目が行かないと思いますが、機会があれば歩いてみてください。調査でわかったのですが特にシダは雑種の種類が多く、他では見られないと思います。

全体に野幌森林公園は植物の種類が近隣に較べて非常に多く、できるだけこのまま子孫に残していきたいと願っているのは私だけではないと思っています。

北海道立自然公園条例抜粋 (2014. 4. 18 閲覧) <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/kouen/shiteishokubutsu.htm>

北海道レッドリスト 2001 (2014. 4. 18 閲覧) <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/yasei/tokutei/rdb/redlist/list.htm>

今回は寄生の一種、野鳥の托卵について紹介します。

野鳥の寄生は Brood Parasite（抱卵寄生）とか Work Parasite（労働寄生）などとよばれています。世界中にはカッコウ科、ハタオリドリ科、ミツオシエ科、ムクドリモドキ科、カモ科、ダチョウ科がありますが、日本に生息するカッコウ科について調べてみました。

カッコウ科には4種生息していてカッコウ・ツツドリ・ジュウイチ・ホトトギスです。

この4種はなぜ托卵をするのでしょうか、いろいろな説がありますが、まず体温が低いため卵を抱卵して孵化させることができない・また子育てを宿主に依存して体力を保持する・ただ怠け者でずぼらなだけ？といわれていますが、まだ本当のことは研究の最中のようなのです。

種によりだいたい宿主が決っていてカッコウは東南アジア、インド亜大陸、アフリカ大陸南部から飛来しコヨシキリ・ウグイス・モズ・ノビタキなどに、ツツドリはオーストラリア北部から飛来し主にセンダイムシクイに、ジュウイチは北海道南部にインド北部、東南アジアなどから飛来してコルリ・オオルリなどに、ホトトギスは北海道南部に東南アジアから飛来し主にウグイスに托卵します。

托卵には条件があり（1）食物が基本的に同じである（2）宿主の個体数が多い（3）自分より身体が小さい、特に（1）は重要で雛の栄養バランスが崩れると死んでしまう可能性が高い（2）では宿主の数が多いことで巣を探す手間が省ける。

卵は宿主の色彩や模様がみごとなまでに似ていて宿主もこれを見破れないと托卵されます。宿主の卵に色や模様を変化させる技術をもっていて宿主によりそれを変えます。写実画家と彫刻家を合わせた芸術家のようなのです。

托卵行動は宿主の巣作り段階から見つけていて巣作りが終わり産卵が終わるのを近くで見張る。宿主の産卵は午前中が多く托卵は産卵が終わり夕方餌取りに出かけて留守になった10秒前後という短い時間に行われ難産で手間取ることはありません、巣の卵を1個口にくわえたまま産卵し、くわえた卵は持ち去って食べます。

卵は宿主の卵より早く孵化し背中のくぼみに卵を載せ巣の外に全部捨てます。

仮親は姿形が違っていても雛の赤い口の中を見ると餌を運ばずにいられないようです。小さな身体で大きな口の雛に飲みこまれそうになりながら餌をあてます。

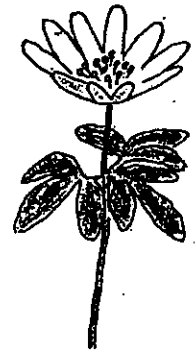
良く猛禽類のように羽を広げてグライディングやソアリングをしているのを見かけますが、そうすることで猛禽類に見せかけ驚いて巣を飛び立った所をさがしているともいわれています。

産卵数もほかの野鳥に比較して多く（15～25個）「下手な鉄砲数打ちや当たる」方式で多くの巣に托卵しています。いづれにしても宿主は、卵を吟味しないで警戒を怠ると托卵の憂き目にあいます。宿主も一方的に托卵されている訳でなく卵に違和感があるとくわえて巣の外に排除したり、巣の上にまた巣材を載せてまた産卵したり、巣を放棄したりと知恵をしぼって子育てを行います。

どんぐりの森を行く

苫小牧市 谷口勇五郎

4月27日、某会で、どんぐりの森の観察会に出かけました。途中、国道そばのヤナギは咲き、若葉を出しかけていました。JR 早来駅から国道234号を横切り、山側へ、バスで20分ぐらいして、町民の森（通称どんぐりの森：安平町早来北進）に着きました。案内板そばのハルニレは小さな赤褐色の花を咲かせていました。目立たない花なので、殆ど気にする人はいないと思います。「どんぐりハウス」前の広場のキタコブシは咲きかけ、昼には数個咲いていました。



アズマイチゲ

ハウス裏の散策路を登り始めました。あちこちに、花はもう終わりかけたフクジュソウの小群落があります。この花は太陽が出ると全開するので、光が原因かと思えば、真っ暗でも10℃以上になると開きだすので、温度の方が原因なそうです。これを温度傾性（チューリップ・クロッカスなども）といいます。アズマイチゲもところどころに咲いていました。この方は光が当たると開花（光傾性：タンポポ）します。ナニワズは満開。フッキソウはまだつぼみですが、花穂の先の方に多数の雄花、元の方には数個の雌花があります。花びらはなく、咲くと臭います。草という名ですが常緑樹で、シカは食べないそうです。キバナノアマナやエゾエンゴサクも数ヶ所で咲いていました。エンゴサクの葉は赤紫色がかっているのので、この辺の変種かな、と議論。別のところに、花が終わりかけたものの葉は普通の緑色でした。

春植物（または、春の妖精：スプリング・エフェメラル）とは温帯の落葉広葉樹林下で、春先に花を付け、夏まで葉をつけた後、地下で休眠する草花をいい、地下には根茎や球根を持ちます。落葉広葉樹が葉を開く前に光を利用し、樹木との季節的なすみ分けをしていることになります。フクジュソウ・アズマイチゲ・エゾエンゴサク・キバナノアマナなどが属しています。

枯れ葉の上にカナヘビの子が1匹おり、どこかでウグイスの声もしました。2匹のエゾリスが追いかけてっこをしていました。あれは兄弟がじゃれあっているのだ。いや縄張り争いだ。いや雌が雄を追いかけているのだ。云々。エゾリスの繁殖期は3~7月、出産は4~8月、子育ては雌のみといいます。

ハウス近くの小川の岸に、バッコヤナギが咲いていました。ヤナギ類は雌雄が別株です。雄花の花穂を1個取り、ルーペで見せ合いました。先の方の半分ぐらいの葯（やく：花粉袋）は脱落し、元のほうにある葯を確認し合いました。その後、別のところで雌花（雄花は黄色っぽい、雌花は緑色っぽい）の柱頭も確認し合いました。ミズナラやコナラの多い、自然豊かな森林公園でした。

今春大学院を卒業する息子に、卒業祝いどころか連れて行ってやると聞くと、屋久島と答えが返ってきた。お前に出すお金はこれが最後だと伝え、計画はお前が練れと言ったものの、結局彼がしたのは飛行機の予約のみで、民宿予約、レンタカーの予約等島内の計画は全部私がすることとなってしまった。一度経験しているから仕方ないか！餅屋は餅屋なのか？やはり宮之浦岳と縄文杉は譲れない！しかし同じ山ばかりも！で。

3月19日、7:40分発大阪伊丹空港行きの飛行機に乗るため、始発の空港行きに乗車し千歳空港に向かう。伊丹空港に着き乗り換えのため鹿児島行きへの搭乗口に向かうと、我々の乗る飛行機の前飛行機はまだ到着しておらず、遅れを知らせるアナウンスが流れていた。鹿児島空港濃霧のため運行を見合わせているとの事、屋久島でニュースを見て知ることとなるが、9便が欠航する状態だった。おまけにPM2.5も酷いと報じていた。息子がカウンターに行き事情を説明すると屋久島行きの直行便に間に合うらしく変更の手続きをしてくれた。屋久島空港は滑走路が短いのでジェット機が使えないので双発機となる。前回も鹿児島から双発機で行った記憶が蘇ってくる。屋久島到着が予定より早くなってしまい、民宿の送迎を早くして欲しい旨を伝えようとするが、留守らしく連絡が付かない。先にレンタカー屋に行き手続きをする。有名レンタカー屋はどこも借りられていて、屋久島NAVIと言うレンタカー屋に予約をしておいた。この社長はじめ従業員がフレンドリーな女性ばかりで、親切にしてもらう。ガスカートリッジや携帯トイレまでくれる親切さで驚くばかりだった。登山者が置いていくガスカートリッジが結構多いらしい。結局買わずに済みちょっと得した気分になる。手続きを終え連絡を入れ空港で愛子岳を眺めながら待っていると、今日から3日宿泊する一期一会と言う民宿の車が迎えに来た。民宿の親父さんが民宿から見える山の説明やら岳参りの話をしてくれる。早く着いて今日の予定がないので、民宿の周りの散策に出かける。近くに墓地があり、前回も感心したのだが、綺麗な生花がお墓に供えて有る墓が多く屋久島の習慣を感じる事となる。後で聞いた話によると、屋久島のお年寄りあまり旅行とかはせず、墓参りをするのが習慣との事。鹿児島の生花の消費量が日本一位だとか！安房川にも行ってみる。水のきれいな川と言うより、花崗岩の島なので、どこの川も綺麗なのだ！今日の呑み代子を買いに、安房港近くのスーパーまで歩いていく。前回行った記憶を頼りに行ってみるが、民宿からちょっと離れているので遠く感じる。すかさず焼酎三岳を発見、前はスーパーで何本限定の三岳を並んで買ったのだが、供給量が増えたらしく、4合瓶は一人3本、1升は一人2本と限定で買えるようになっていた。ビールと三岳を仕入れ、宿へと戻る。風呂に入り、安着祝いで一杯やる。夕食はやはりトビウオ、定番である。生ビールと三岳を飲みながら夕食を楽しむ。翌日は天気が悪いらしく、日帰りの山を考えていたが島内観光をすることとし就寝。

4月20日朝から雨降り、手配しておいたレンタカーで島内を回る。前回同様のコースを辿る。志戸子ガジュマル公園、布引の滝、雨上がりで水量が多くなかなか見事だ。次は永田いなか浜(ウミガメの産卵地)、横河(よっこ)溪谷、ここは雨上がりで水量が多く流れが急だった。普段はゆったりとした流れで綺麗な所らしい。途中ポンカンか柑橘類の畑の細い道を通る。手の届く所になっていた柑橘類を失敬！ごめんなさい。次に西部林道、対向車が来ると避けるのが大変な林道、林道と言っても全部舗装道路。対向車が来ないことを祈りつつ走行するも、そぞろ歩く人の後から中型のバス、しかし待避所が在り難なくクリア、今日は天気が悪いせいかヤクザルを見かけないと思っていた矢先、天候が回復に連れ、結構見かけるようになる。サルと鹿があちこちに居る。前回みたく車が来ても動じないくらい大量にサルがいないので通行は楽だった。次に大川の滝(おおこの滝)、ここも水量が多く笑ってしまうくらい豪快だ。中間ガジュマル(NHKの

朝ドラ「まんてん」の撮影地)、湯泊温泉、海の際に沸く露天風呂、脱衣所、トイレが完備されている。申し訳程度だが男女の仕切りもある。入浴していたら洗濯中のおっさんがパンツを洗い出したので即退散、次が平内海中温泉、干潮時に入れる温泉、潮見表では今日は2時前後に入浴可だったが、早く着いたので仕方なく、手前でもちょっと温めだが入れそうな浴槽があったので波しぶきをかぶりながら入浴を楽しむ。ここは、脱衣所もなく岩陰で着替えるしかない。入浴後車を走らせていくとモッコム岳が眼前に現れてくる。見ごたえのある山容だ！天気が回復するのならモッコム岳に行けば良かったと悔やむ！千尋の滝の手前にモッコム岳の登山口が有る。千尋の滝を見て尾之間(おのあいだ)温泉に行く。350年前に発見されたと言われている硫黄泉質の少し熱めの温泉、200円を払い入浴。昼間っから温泉、旅行ならではの楽しみ、地元の人はフレンドリーに接してくれる。下から湧いているとか、こっちがヌルめとか、日中は空いて気兼ねなく入れる。前回は夕方行っただので芋洗い状態だった。島を3分の1周したが時間がまだまだ有る。昼食を終え今度は屋久島有用植物リサーチパークに行き南国の植物観察、申し訳程度にパイナップルになっているぐらいで、樹木を見るだけとなる。園内からトローキの滝を見る。海まで出て磯遊びを楽しむ。一通り観光し一期一会に戻る。いよいよ明日は宮之浦岳登山。民宿の主人に朝の登山弁当とタクシーの手配を頼む。朝早いので民宿の人が寝ているため、登山者用の弁当屋が在り宿に届けてくれるシステムが出来ている。直接買いに行くのも有り。

3月21日いよいよ**標高1936mの宮之浦岳へ行く**。天気の回復が遅れているらしく、朝から風が強い、昨日の天気予報では、寒気が入り込んで、東北以北は雪の予報が出ていた。起床後民宿のお母さんに教えてもらった弁当の置き場所から弁当を回収し、午前5時手配してもらったタクシーに乗り込む。淀川まで行くバスがなくレンタカーかタクシーとなってしまう。屋久杉自然館前を通ると、縄文杉まで行く人たちと思われる人たちが大勢バスを待っていた。安房からヤクスギランド、紀元杉方面へ距離にして23.5km、車にて約1時間半で、標高1365mの淀川登山口に到着。数台分の駐車スペースとトイレがある。登山口まで5400円ほど、淀川の登山口に着くとまだ真っ暗、しかも寒い！ガイドツアーの人たちが数名準備をしていた。登山届を書いてカッパの上着を羽織り6時出発、まだ薄暗い登山道をヘッドランプを点けを進む。周りはヒメシャラ、ヤマグルマ、シヤクナゲの林、屋久杉はもちろん健在。名も付いてない杉でも、やっぱりデカイ。ほぼ予定通り淀川小屋に着く。淀川に架かる鉄橋から、透明度の高い綺麗な川が眺められる。しばらく進むと高盤岳展望台から、高盤岳の上に、通称トーフ岩といわれる岩が見える。時より日が差すも寒い、休憩していたら寒いので進むことにする。地面に目をやると霜柱が立っていた。たまに白いものが降ってくる。周りを見ると木々が霜で白くなっていた。木に付いていた霜が舞っていたのだ！突然開けた場所に出たら、そこが小花之江河「こはなのえごう」、ここの木道から氷始めていて滑って転倒しそうになるので摺足出歩く。南の島の山だとタカをくくっていたのが仇となりここから試練の始まりとなる。木道はツルツルで滑るし、岩の上は凍っているしで、アイゼンが必要なほど危険だ。しばらく進むと花之江河、最も南の高層湿原との事。黒味の別れで躊躇することなく黒味岳を目指すことにする往復ほぼ1時間。ザックをデポし、お湯の入ったポットを持って頂上を目指す。天気が悪く周りは霜だらけ、冬用の手袋がないので手がかじかんでくる。凍りついたフィックスザイルが棒状になっている。もちろん岩の上は氷で歩くのに難儀する。頂上は強風で寒いのでそそくさと記念写真を撮影し下山し黒味の別れに戻り休憩。徐々に森林限界が近づいて、展望が一気に開ける！ここら一帯は投石平と呼ばれる場所。ここも湿原で周りを見渡せば奇岩がたくさん、天気が悪く宮之浦岳は全然見えない。たまに日が差すと暖かが直ぐに陰ってしまう。ツルツルの木道と岩との奮闘が続く、頼れるのは霜のついたササのみ、岩の上は解けて流れている岩の上を行くとなんとか登ることができる。手袋を濡らさないようにするがやはり濡れてしまう。晴れていれば栗生岳、翁岳、安房岳、投石岳と

いくつかのピークが見られるのだが最悪のコンディション、しまいには雪まで降ってくる。なんとか栗生岳の岩屋に着き人心地、ここは岳参りの本体らしく祠がある。しかしただ休んでいるとやはり寒くなるので歩むこととなる。所々に残雪があり南国でも高い山は雪が降るんだと現状と残雪で実感する。いよいよ宮之浦岳、抜きつ抜かれつの二人づれを抜きいよいよ頂上、先を息子に譲り息子の初登頂。春のポカポカした頂上を期待していたがなんと真冬の屋久島宮之浦岳！これもいい経験かも？まずは携帯がつながるので登頂を自宅に報告、しかしあまりの寒さで速下山。ひたすら今日の目的地新高塚小屋を目指す。息子は昼食を気にしているので平石岩屋で風が防げるのでそこまで我慢しろと即す。霜のついたササと凍りついた岩との戦いがしばらく続く。なんとか平岩岩屋に着く。ここでビバークを決めた人がいて簡易テントを張っていた。平岩岩屋で休息するもやはり寒い。ひたすら下へ下へと向かうが結構なアップダウンの繰り返し、なんと森林限界までたどり着き暖かさを感じず。風が無いとわりと暖かい。たまに風の通り道を通ると寒さと凍結路面、北海道だぞ俺らは！と思いながら凍りついた山道を降っていく。だんだんと大木の杉が現れ程なく今日の宿泊場所新高塚小屋に着く。小屋の前にはヤクシカ、小屋は6割くらい埋まっていたが我々親子には十二分のスペースがあったが徐々に埋まり夕食時には小屋は満杯。到着後暖房を兼ねて多めに貰ったガスカートリッジを使い暖をとる。やることもないし寒いので持参した三岳でお湯割りを楽しみ安着祝い。かけがえのない親子の時間かも？

小屋もだんだん混雑してきた頃夕食の準備がたらビールで乾杯。卒業おめでとう。これで親の務めは終わったかな？なんて！私達親子の呑み代が無くなっていた時、隣のパーティーから焼酎の差し入れ、山談義、お酒の話、お互いの正体の話等々短い時間だが会話を楽しむ。この人たちは鹿児島の人達で荒川から宮之浦岳を経て淀川を目指すとの事、山の現状等情報を教える。就寝となるが人が多いのと皆が調理でガスストーブを使用したので夏用シュラフとシュラフカバーでも寒くなく寝ることができた。

3月22日5時起床、明るくなるのを待って下山、まずは今日のメイン縄文杉、新高塚小屋から1時間10分程で縄文杉着。やはり圧巻の存在感！早く行くとほとんど雑踏とは無縁で独り占め状態を楽しむ事ができる。しかし先行者1名、同じ新高塚小屋に泊まっていた登山者。縄文杉のパワー感じ取り、記念写真を撮り白谷雲水挾を目指す。まだ縄文杉を目指す観光客が来ないだろうとタカをくくっていたら徐々に登ってき出す。夫婦杉を過ぎる頃から段々と増え出す。夫婦杉は連理木（れんりぼく、れんりぎ）とは、2本の樹木の枝、あるいは1本の樹木の一旦分かれた枝が癒着結合したもの。自然界においては少なからず見られるが、一つの枝が他の枝と連なって理（木目）が通じた様が吉兆とされ、「縁結び」「夫婦和合」などの象徴として信仰の対象ともなっている。なお、違う品種同士で連理となる場合もある。

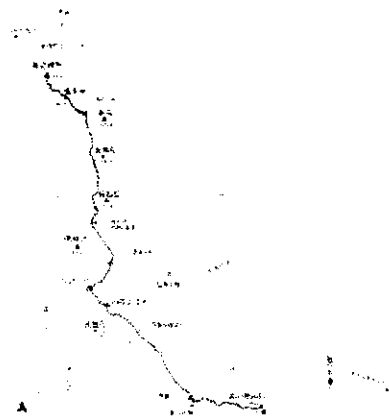
ウィルソン株に着く頃にはすごい人。ウィルソン株（ウィルソンかぶ）とは、屋久島にある屋久杉の切り株で、1586年（天正14年）、牧村の五郎七が足場を組み、豊臣秀吉の命令により大坂城築城（京都の方広寺建立とも）の為に切られたといわれる。胸高周囲13.8m。ハーバード大学樹木園のための収集に、日本を訪れたアメリカの植物学者アーネスト・ヘンリー・ウィルソン（Ernest Henry Wilson）博士により調査され、ソメイヨシノなど多くの桜などの収集とともに1914年に西洋文化圏に紹介され、後年この株の名前の由来となった。縄文杉発見（1966年）の52年前の調査である。株の中には清水が湧き出ており、内部に祠がある。またこの杉は枝が多く、使い物にならなかった先端部分は、下の沢に放置され、今でも残っている。周囲は立ち入り禁止区域になっているが、内部には入ることができ、空を見上げると「ハート」型に見えるポイントがある。なんとなくトトロを感じる。しかし登ってくる若者のファッションは相当な物でほとんどが有名ブランドを着ている。縄文杉はブランド品の若者が一杯だった！ここで休息し大株林道を目指すも、次から次が登ってくる縄文杉詣での人で下山が困難になる。木道や登山道は登り

優先、この状況でバスの時間までに下山できるのかと不安になる。何とか大株林道まで降りたら、トイレ待ちの女性の大渋滞、男子はスムーズだった。息子は憧れだったトロッコ道を歩いて感無量だったよう。まだまだ続く縄文杉詣での観光客、ほとんどがガイドツアーの人達、挨拶だけでも大変だ。しばらく進むとほとんど登り的人がいなくなりトロッコ道を楽しむ事ができる」。自然とスタンドバイミーが脳裏に流れてくる。馬鹿だねー！三代杉（今よりおよそ 3500 年前に一代目の杉が生えて約 2000 年生き、二代目はその倒木の上に偶然発芽。親木を肥やしとし約 1000 年生き、三代目は株より芽を出した一本の苗が成長し、現在 500 年しかたっていないが輪廻転生を覚えさせる樹として保護されている）を過ぎたら楠川の別れ、ここから 50 分程で辻峠、途中に「もののけ姫」のモロ一族が住む岩屋のモデルとなった辻の岩屋がある。

辻峠に到着、即太鼓岩目指す。太鼓岩（標高 1050m）辻峠から約 20 分ほど登ったところにある展望の良い花崗岩の巨岩。天気の良いれば眼下に小杉谷周辺、安房川がよく見え、奥に太忠岳、安房岳、翁岳、栗生岳、宮之浦岳などを望むことが出来る。ここは期待以上の展望が望める場所で、前回天気が悪くちょっと残念だったが、今回は宮之浦岳が残念だった分期待は大きい。やはり期待以上の展望があり、頂上の花崗岩上で寝そべったりと太鼓岩を楽しむ。いよいよもののけ姫の森白谷雲水挾に降る。屋久島には数々のもののけが居るらしく、山姫をニイヨメジョとも呼び、伝承が数多く残る。十二単姿で緋の袴を穿いているとも、縦縞の着物を着ているとも、半裸でシダの葉で作った腰巻を纏っているともいうが、いずれも踵に届くほど長い髪若い女であることは共通している。山姫に笑いかけられ、思わず笑って返せば血を吸われて殺されるという。山姫をにらみつけるか、草鞋の鼻緒を切って唾を吐きかけたものを投げつけるか、サカキの枝を振れば難を逃れられる。しかし、山姫が笑う前に笑えば身を守れるとの伝承もある。かつて屋久島吉田集落の者が、山に麦の初穂を供えるため、旧暦 8 月のある日に 18 人で連れ立って御岳に登った。途中で日が暮れたため、山小屋に泊まった。翌朝の早朝、飯炊きが皆より早く起きて朝食の準備をしていたところ、妙な女が現れ、眠る一同の上にもたがって何かしている。結局、物陰に隠れていた飯炊き以外の全員が血を吸われて死んでいたという。そんな世界を感じながらコケの生えた山道を降る。やはり自然と米良美一のもののけ姫の歌が脳裏に浮かんで口ずさむ。単純な人間だね！ここも観光地で次から次へと人が登ってくる。コケ、水、屋久島を感じる。哲学者（息子）はコケに何か感じるものがあるらしく見入っている。白谷小屋で休息、ガイドブックに記載されている数々の杉を見ながら下山。さつき橋を渡り飛流落としを横に見て、バスの時間まで時間が有るので憩い大岩でしばし休息。入口で協賛金 300 円を払いバスにて宮之浦港に向かう。手配のレンタカーに乗り民宿に戻る。途中宮之浦で魚屋により北海道では食べることのない刺身を購入仕打ち上げの肴とする。宿に戻り入浴しこの 2 日間を思い乾杯。

3月23日、今日は**太忠岳**、1497m 個性的な山の多い屋久島だが、この山のふしぎな姿はとにかく気になる。なにしろ反りくり返った岩塔がまるでトゲみたいに、山頂にモロに突き刺さっている。近ごろじゃ、親指を立てた「グッジョブ」の山とか言われたりもしているらしい

屋久杉ランドから行く太忠岳、今日は日帰りコースなので、民宿で朝食を済ませ、レンタカーで屋久杉ランドに向かう。ほとんど荒川からの縄文杉詣での人たちが登ってしまったので対向車に会うことなく屋久杉ランドに



到着。建物越しに太忠岳が見える。今日は天気が良い。ランド内は木道がきれいに整備されている。しかし荒川の吊り橋を渡ると木道はなくなり、斜面を入り乱れる木の根から木の根へ、鬱蒼とした森の中を登っていく。まわりを覆い尽くす苔がすごい。そして複雑怪奇に入り乱れる多種多様な樹木。聞きしに勝る大自然パワーだ。7歳の女の子が命名したという「ひげ長老」などの屋久杉の前を通り、ヤクスギランド入口から40分ほどで蛇紋杉の東屋に着く。それにしてもこの屋久杉、デカすぎてこっちのスケール感が狂ってくる。蛇紋杉でヤクスギランドから離れ、太忠岳登山道に入る。尾根かと思うと水場が現われたりする微妙な地形の斜面を登ってゆく。そこらじゅうに湧く豊富な水は屋久島の象徴だ。このあたりは天文年間に伐採されたのち再生した一帯で、「天文の森」と名づけられている。積雪期だというのに力強い緑の魔境。苔むした巨大な伐り株と、そこから更新した杉たちが複雑な風景を形成し、荘厳な美しさがある。天文の森をすぎるとあたりはアセビなど風衝性の低木が増えてくる。そして斜面はますます急になり、巨大な岩の影にたどり着く。そこからは頂上とは逆方向に、尾根下の斜面をトラバースしてゆく。やがて広場のようなところを通って尾根に出て。「石塚分かれ」と呼ばれるところ、ここからは東に向きを変え、太忠岳の頂上目指して尾根づたいに歩く。やがてついに、これまでまったく見えなかった天柱石の背中がドーンと姿を現した。本当の頂上は天柱石のてっぺんなのだが、登るのはどうして無理。過去にはボルト打ちまくって人工登攀した人もいるらしい。頂上で思う存分太忠岳を楽しみ宮之浦岳の不満を解消する。来た道を引き返し屋久杉ランドに戻る。時間と体力に余裕があれば、太忠岳出合から屋久杉ランド150分コースに入り、屋久杉ランドも回っていくと良いと思う。車で降りていると狭い場所で路線バスとすれ違う事になった。バックして広い場所なまで戻りバスを交わす。レンタカーのホイールカバーが擦っているのも頷ける。今日の入浴は時間が早いので尾之間温泉まで行き入浴することとした。尾之間温泉では明日目指す蛇の口滝のコースの確認をする。

3月24日最終日今日は飛行機の時間まで有効に使おうと蛇の口滝ハイキングコースを選ぶ。登山口は「尾之間歩道」と同じでありコースもほとんどが尾之間歩道です。つまり、「蛇の口滝ハイキングコース」と名前が付いているが、道はしっかりと登山道で。尾之間コースは淀川登山口まで続いており標高0mからの登山を本当にしたい人はここから宮之浦岳を經由して楠川の海岸に出るコースをお薦めしたい。登山道には所々にピンクテープ（道しるべ）がついているけど結構、迷いやすいので用注意、車は尾の間温泉の駐車場に停めさせてもらう、管理人にキーを預けるらしいが、今日は清掃日で早朝だったから誰もいないのでそのまま向かう。蛇の口滝は鈴川という川に有り。昔は、整備されたいたことをうかがえる案内板やベンチなど有るが既に荒れていて崩落したコースの迂回路がある。もともと、屋久島自然公園だったところで亜熱帯植物が野生化しており、ジャングルっぼい！途中には炭焼きをしていた場所が有り、その近辺だけ気が細い、案内板に炭焼きに利用で伐採と書いてあった。大きなアコウの大木やヘゴと言うシダが所々に生えており宮之浦岳とは違った景観が楽しめる。分岐点には東屋がある。ここから先はやや分かりにくい個所がいくつかある。蛇ノ口滝は大川の滝、千尋の滝と並び屋久島で最大級の滝で、滝壺から見ると落差は約30mで、そのすぐ上に幅50m長さ100mの一枚岩が続いており、その上を水は滑り落ちている。今日も天気がよく最高の滝日和で20分ほど滝も景色を楽しみ下山する。往復8キロ約2時間半のコース。午前中下山だったので、尾之間温泉は清掃日で午後からの営業、飛行場からそれほど遠くないので楠川温泉を目指す。泉質は無色透明のアルカリ性単純泉で冷泉のため、沸かして適温にしている。楠川温泉は古くから地元の人々に湯治として親しまれてきたそうで、効能は、神経痛やリウマチ、皮膚病などに効果とのこと。すぐ側には湯之河が流れており、水の流れを聞きながら風流に温泉を楽しめる。登山や旅の疲れも癒してくれる温泉。親切な受付のお姉さんで、シャンプーとコンディショナーを貸してくれ

る。宮之浦に行きお土産のトビウオの開きキビナゴ等を購入し、屋久島ラーメンを食べてレンタカー屋に行き返車。フレンドリーな社長さんに空港まで送ってもらう。屋久島を十二分に堪能した親子旅だった。息子大喜びでした。双発機、中型機、最後はトリプルセブンと飛行機が大きくなる。羽田では乗り継ぎが間に合わないとのことで車にて搭乗口に向かう。

屋久島の妖怪 「げじべえ」は屋久島の山に住む妖怪です。

屋久島の山には、いろいろな妖怪が住んでいます。その代表的なものが、「げじべえ」「山姫」「山のもん」「川のもん」などです。「げじべえ」は、森の精の妖怪で大木や老木などに住み着いています。昔のきこりたちは、老木などを切るときには、ヨキヤのこを供え、お神酒を奉ってことわりを言って切り倒しました。その昔、木炭が重要なエネルギー源であった頃、屋久島では炭焼きが盛んにおこなわれていました。そのころ集落の人たちも組合を作り国有林を払下げどんどん森を切っていたのです。これに怒ったのでしょうか、「げじべえ」は山で炭を焼く人たちに夜な夜ないたづらを仕掛けてきました。それは、昼間に人たちがしていた事をまねするのです。まず、木にヨキで切り込みを入れる、そして、ノコで引き、矢を打ち込み、木が倒れる。それを本物と寸分も違えずに再現してくるのです。その倒れる飢餓如何にも自分たちのいる炭窯に打ちかかって来るようで大変怖かったそうです。

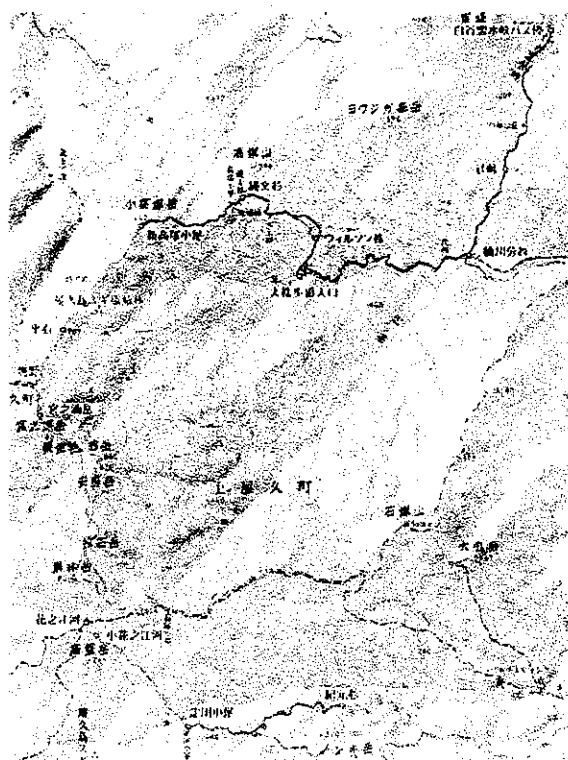
このことは、自分たちの棲家が荒らされていく事への「げじべえ」たちから人間への無言の抵抗だったのかもしれませんが。今でも屋久島の山、そしてこの森にはおおくの「げじべえ」たちがいて私たちの行動を監視しています。人間のわがままで山や森を傷つくと「げじべえ」はいたづらを仕掛けてきます。「げじべえ」は決して私たちに悪意は持っていないはずで、私たちの思いや願いを聞いてくれるに違いありません。何か聞こえてきませんか？ 原集落ホームページ参照。

コースタイム 3月21日宮之浦岳 5:00 民宿発→5:50~6:00 淀川登山口→6:40 淀川小屋→8:05 小花之江河→8:16 花之江河→8:20 黒味の別れ→9:00~9:05 黒味岳→9:30 黒味の別れ→11:20 栗生岳→11:40~50 宮之浦岳→12:45~50 平石岩屋→14:05 新高塚小屋

3月22日 5:00 起床→6:20 小屋発→7:30~45 縄文杉→8:50~9:00 ウィルソン株→9:20~30 大株林道→10:42 楠川の別れ→11:40 辻峠→11:50~12:05 太鼓岩→14:20 白谷雲水挾

3月23日 太忠岳 7:20 民宿発→8:00~10 屋久杉ランド→10:35~11:30 太忠岳→13:30 屋久杉ランド

3月24日 “蛇の口滝 8:10 尾之間温泉→9:26 炭焼き跡→9:55~10:15 蛇の口滝→11:17 尾之間温泉



自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報
平成26年度 NO.1
平成26年4月24日発行
北海道ボランティア・レンジャー協議会

森の中を歩く

マダニに注意

雪が解け森の中には可憐な花が咲き始め、木々の新芽もではじめました。森の中の小さな虫たちも一斉に活動を始めますが、その中には人間にとって迷惑この上ない虫もいます。その中の一つに、春と共に一斉に活動を始める「マダニ」がいます。今年に入ってウィルスを持ったマダニが北海道でも生息することが調査でわかりました。マダニを過剰に恐れることはありませんが、十分に注意しましょう。

★マダニの仲間

マダニは日本に47種が生息していますが、人間から吸血する種はヤマトマダニとシュルツェマダニの2種といわれています。これらのマダニは成長段階や個体差、吸血前後でサイズは異なりますが、オスで3.2mm、メスで2.3mmぐらいです。マダニの多くは北海道では春から秋(4月～10月)にかけて活動が活発になります。

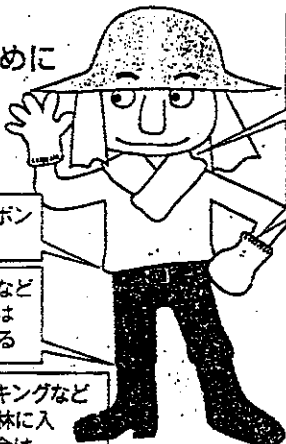
★マダニの生態

マダニは葉の表裏や小枝で吸血する動物を待ち構えています。また、ハーラー器官とよばれる感覚器官を持っていて、動物から発せられる二酸化炭素の匂いや体温・体臭などに反応して獲ものにとりつきます。マダニは幼ダニ、若ダニ、成ダニの各ステージで1回ずつ生涯で3回吸血します。

★マダニによる病気

マダニにかまれて発症するSFTS(重症熱性血小板減少症候群)が話題になり北海道でもこのウィルスを持つマダニが発見されました。治療法は確立されていなく死亡例もありますが、あまり深刻になることもありません。野や森での活動後はマダニが体に付いていないかチェックすることが必要です

マダニから 身を守るために



首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用

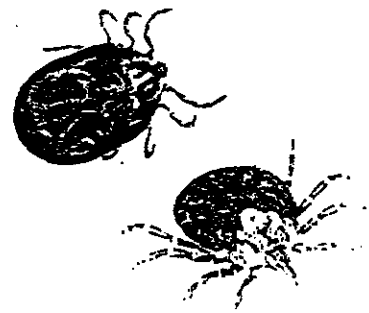
シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れる

野外では、腕、足、首など、肌の露出を少なくする服装を。半スポンやサンダル履きは不適当です

シャツの裾はスポンの中に入れる

農作業や草刈りなどではスポンの裾は長靴の中に入れる

ハイキングなどで山林に入る場合は、スポンの裾に靴下をかぶせる



KANA S. Illustrations
衛生昆虫写真館 Photos

★マダニにかまれたら

吸血中のマダニを無理に引き抜くと悪化することがあります。皮膚科で速やかに除去や消毒をしてもらいましょう。

このほかにも…

- Ⓜ 上着や作業着は家の中に持ち込まないように
- Ⓜ 屋外活動後は、シャワーや入浴でマダニがついていないかチェック
- Ⓜ ガムテープを使って服についたマダニを取り除くのも効果的

(図は4月14日 道新掲載を引用)

漢字から学ぶ春の野草

フクジュソウ、エゾエンゴサク、ミズバショウなど春の森を彩る野草が咲きだします。かな文字で書かれた和名よりも漢字で表された和名をみると、漢字の意味から、いろいろ野草のイメージが膨らんできます。春の野草の幾つかを漢字名から想像してみました。

●水芭蕉(ミズバショウ)

花が終わると長楕円形の葉が伸び出し大きいもので1メートルを超えるものもあり、中国産のバショウ科の植物をおもわせることから名付けられました。

●坐禅草(ザゼンソウ)

達磨草ともいわれ、達磨和尚が坐禅を組んでいる姿からきています。ザゼンソウの仲間は3種あり北海道にはザゼンソウ、ヒメザゼンソウの2種が自生しています。

●秋田蓆(アキタブキ)

蓆は路ばたのいたるところに生えるとの意味があります。江戸時代の秋田藩主が江戸で傘がわりになると秋田の蓆を自慢したところ信じてもらえず、秋田から巨大な蓆を持ちこみ、納得してもらい名譽を回復したといわれます。

●福寿草(フクジュソウ)

元日草、朔日草(ツイタチソウ)の別名を持ち、福寿草という名も新春を祝う意味があります。日本には、フクジュソウ、キタミフクジュソウ、ミチノクフクジュソウの3種があります。

●蝦夷延胡策(エゾエンゴサク)

地下に1~2cmの塊茎があり、これを乾燥したものが、生薬「延胡策」と呼ばれ漢方薬になります。浄血、鎮痛、鎮痙薬になります。

●延齡草(エンレイソウ)

名の由来は年齢を延ばす「延齡」との説があります。根茎は中国では延齡草根と呼ばれ古くから胃腸薬や催吐剤などの薬草とされますが、サポニンという有毒成分を含む有毒植物です。別名ヤマソバとかアメフリボタンともいいます。

●蝦夷立金花(エゾノリュウキンカ)

リュウキンカとは茎が直立して金色の花が咲くところからきています。雪解けの水が流れる沢沿いやたまり水の縁に咲くはなやかな黄色は春を感じる草花です。黄色の花弁に見える部分は花弁状のがく片です。キンボウゲ科の植物です。

5月の観察会予定

■春のありがとう観察会 5月11日(日) 10:00~14:30 ふれあい交流館集合 昼食軍手持参

恒例のゴミを拾いながらの観察会です。ここ数年公園利用者のマナー向上でゴミはほとんどありませんが、野幌森林公園の清掃ボランティア活動を兼ねた活動です。

■芸術の森観察会 5月18日(日) 10:00~12:00 芸術の森入口バス停留所前集合

芸術の森周辺や真駒内川沿いを歩く観察会です。観察会終了後は各自で芸術の森散策も楽しめます。

■三角山登山観察会 5月25日(日) 10:00~14:00 緑花会館登山口集合 昼食飲料水持参

三角山頂上から大倉山までいきます。例年シラネアオイ、ギンリョウソウ、スマレサイシン、オドリコソウ等々が観察できます。三角山頂上からの眺望もステキです。

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成26年度 NO.2

平成26年5月11日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

5月の初め、美唄の宮島沼では、本州で越冬した約4万羽のマガンが、シベリアへの北帰行のために立ち寄り、“渡り”のための準備に余念がないと、新聞やテレビが報じていました。

ここ野幌の森にも、樹々の芽吹きが始まり、春の花々が咲きだす林の中に、南方から野鳥たちが次々と渡って来る季節になりました。森のあちこちでは、野鳥たちが繁殖のパートナーを見つけるためのさえずりの声が響き渡っています。ウグイスの初音が聞かれました。やがてオオジシギのなわばり宣言も聞こえ、オオルリやキビタキの艶やかな声が野幌の森に響く日も近いことでしょう。

さて、その野鳥の声を聞いていると、この鳥たちはなぜわざわざ野幌の森に渡って来るのだろうか？と、私はしみじみ不思議は気持ちになります。

そこで、今回は鳥の「渡りの不思議」について紹介します。

鳥の渡りの不思議

Q “渡り”とはなんだろうか？

“渡り”とは、季節の変化にともない繁殖地と越冬地（越夏地）を年に一往復する季節的移動のことをいう。“渡り鳥”には、「夏鳥」「冬鳥」「旅鳥」「留鳥」「漂鳥」がある。

「夏鳥」とは、繁殖するために日本やってくる渡り鳥のこと。春に渡って来て夏を過ごし、秋南方へ渡って越冬する鳥のこと。「冬鳥」とは、越冬するために日本にやってくる渡り鳥のこと。秋に渡って来て冬を過ごし、春に北方へ渡って繁殖する鳥のことをいう。春、野幌の森に渡って来る鳥は「夏鳥」。

Q 鳥たちは、何のために“渡り”をするのだろうか？

それは、本能に記録された“回帰願望”のせいという。

①季節ごとに変わる環境の中で、食べ物が減少することの対処のため。つまり、食べ物を十分に確保するために移動する。②繁殖と子育てのため。「繁殖期」と「非繁殖期」とで生育地を変えるため。③周年同じ場所にいるより、繁殖率を高めたり、死亡率をより低くなるようにするため。このように鳥は進化したと言われる。

Q 渡り鳥は、渡るためにどのようにして方角を知るのだろうか？

①「体内時計」と「太陽コンパス」（太陽の位置から）で方角を知る。これは、昼間に渡る鳥。

②「星座」によって方角を知る。これは、夜間に渡る鳥。（例）オオルリなど。

③「地磁気」によって方角を知る。（例）ハト

④陸地を普段から記憶をしていて方角を知る。これは、昼間に渡る鳥。

⑤ これらを複数組み合わせる鳥もいるという。

Q なぜ「夏鳥」は、春に日本にやってくるのか？

繁殖・子育てのため。子育てのためには、ヒナにたくさんのおエサを与えなければならない。この季節は、ヒナに与えるためのエサの量がこの季節に増えるから。春には、植物の若葉が茂り、その植物にはそれを食べる昆虫がたくさん発生する。エサは昆虫だけでなく、ヘビやカエルなどもこの時期に大量に生まれるから。

以上、鳥の「渡りの不思議」について調べるうちにわかったこと、それは、鳥たちの“渡り”が自分のエサを確保するための目的ばかりでなく、繁殖のために相手を見つけ、子育てをして自分の子孫を残すためにする、命がけの“渡り”であることであった。野幌の森にやってくる“夏鳥”を観る時、さえずりに耳を傾ける時に、そんな思いを感じて接してほしいものである。

野幌の森の春の野鳥たち (その2)

- オオジシギ (大鳴) シギ科 北海道(夏鳥) ※本州中部以北の高原で局所的(夏鳥・旅鳥)。
日本のみで繁殖する鳥で、派手なディスプレイフライトをするシギ。越冬地はオーストラリア東部。北海道から9000キロ離れたオーストラリアからわざわざ繁殖にやって来る。別名、カミナリシギ(雷鳴)と呼ばれる。雄雌とも全体的に茶褐色や黒褐色などの細かい模様。
(鳴き声)“地鳴き”は「シェッジャー」「ジェー」。“さえずり”は「ジッジッ ズビヤークズビヤーク」と鳴きながら上昇し、ある高さに達すると尾羽を広げて「ザザザ」という騒々しい風切音をたてながら急降下する。これは縄張りを誇示する行動。繁殖期の雄はこのディスプレイを昼夜営巣地です。
(名前の由来)一番大きいジシギ類から。「ジ」は「地」(田んぼ)の意味。
- クロツグミ (黒鶉) ヒタキ科 北海道(夏鳥) ※九州以北(夏鳥)。

美声で、巧みな“さえずり”をする“朝のコーラス”の主演。その声から“初夏のフルーツ奏者”と呼ばれる。

雄は頭部から上面、胸が黒く、胸から下面の白く脇腹などに黒い斑がある。(鳴き声)“地鳴き”は「シー」とか「ツイー」など地域によりさまざま。“さえずり”は「キョコキョコキョコ、ツイー、チョロイチョロイチョロイ」などと複雑で、最後に「ツイー」を入れて、よくさえずる。(名前の由来)雄の体全体が黒い色が特徴のツグミの仲間なので、他の鳥の“さえずり”を取り入れて真似をする。雌もさえずることがある。



野幌の森の春の花たち (その2)

- ニリンソウ (二輪草) キンボウゲ科 花の色:白。北海道・全国に分布。
春の代表的な花。白い花の絨毯(じゅうたん)が春の野を彩る。花は甲虫仲間によく知られた“デートスポット”。昔から春の山菜として、“おしたし”などにして食べられてきた。
別名はフクベラ。“フクベ”は蕾の形から“ひょうたん”の意味で、“ラ”は「菜」の転化したもの。
(名前の由来)1本の茎に通常二輪の花をつけるから。白い花は花びらでなく“がく片”で、がく片は元をたどれば葉っぱである。一輪の花もあるし、三輪の花が咲くものもある。
キンボウゲ科の仲間と猛毒のトリカブトの仲間と葉が非常に似ているので、注意が必要。この仲間はほとんどが有毒で、食べられるのは、ニリンソウとエゾノリュウキンカのみ。
この花は、太陽を追ってゆっくりと西に向きを変えていく。アリが種子を運んで散布する。

花(がく片)が緑色をもったものを「ミドリニリンソウ」(緑二輪草)という。

- マイヅルソウ (舞鶴草) ユリ科 花の色:白。
全国の山地に分布。海外では、東シベリア、北アメリカの太平洋側にも分布する。

群落をなす艶やかなハート型の葉、花は“コンペイトウ”のようにかわいい。

(名前の由来)2枚の葉のハート形の独特な形と葉脈の曲がり方を、翼を左右に広げて空を舞う鶴に見立てて付けられた名前。地下茎で盛んに広がる多年草。地下でつながった地上部はすべて同じ株である。葉の大きさは、地域によって大きく変化し、北日本から南西日本へ行くにしたがい、葉が小さくなる傾向がある。果実は模様に変化していき、秋には真っ赤な実になる。



★6月の観察会

☆「森の新緑観察会」6月8日(日) 10:00~12:30 (集合:野幌ふれあい交流館)

☆「北広島レクの森観察会」6月22日(日) 10:00~12:30 (集合:北広島レクの森入口駐車場)

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成26年6月8日 No. 2

北海道ボランティア・レンジャー協議会

風よ、ふけ！



フキノトウ

アキタブキ

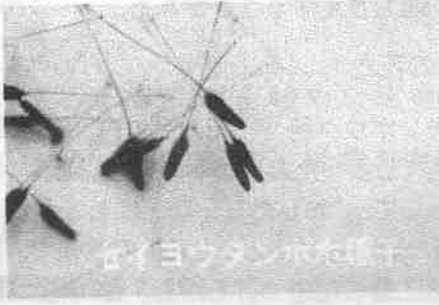
春の原っぱににぎわいをもたらしたフキノトウの姿は、すでに見当たらない。お株のフキノトウはいち早く役割を終えて姿を隠した。雌株のフキノトウは写真のように元気が良かった。青空の中、りんとして立つ雌花のフキノトウは、「風よ、ふけ！」と呼びかけているようだ。そして、風の強い日、綿毛のパラシュートに乗って旅立っていった。森の木々が葉を茂らす前に、沢山の光を浴びて種子を実らせ旅立つは賢い生き方だな。

セイヨウタンポポ

セイヨウタンポポも見事なパラシュートで旅立つ。今の時期、旅立ち風景がイッパイ見られる。種子には軟着陸できるように工夫も施されている。



セイヨウタンポポ



セイヨウタンポポ

虫よ、来い！



オオハナウド

オオハナウド

オオハナウドの花が咲き始めた。花の上を虫たちがつむじ風のように飛び回っている。花には沢山の虫が着陸して歩き回っている。花に潜り込んでいるものもある。虫たちの楽園みたいだ。

コンロンソウは花の盛りを過ぎていたが、チョウが訪れていた。スジグロシロチョウだ。

植物が多様に進化するにつれて、昆虫たちも多様に進化した。昆虫と植物は生きるためのパートナーである。。



コンロンソウ



ミズキの花

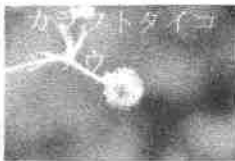


今の時期の森の中は白い花が多い。昆虫たちは人間と違って白い花をめざとく見つける能力を持っているかもしれません。人間なら赤や黄をめざとく見つけるのだが。

動物よ、来い！



ヤブニンジンが実をつけていた。実には沢山の毛がついていて動物の体などにくっついて運ばれる。またの名前はボウジラミ。



観察コースには、カラフトダイコンソウの実も見られる。これもカギ形の毛がついていて動物などに運んでもらうのに都合がいい

風よ、ふけ！・虫よ、来い！動物よ、来い！の話

6月4日、野幌の森を歩いた。初夏の森は、エンレイソウなどが一斉に咲き誇る華やかさは影をひそめていた。草木の緑は色合いを一層濃くし、落ち着いた感じだ。その中で、実の散布時期を迎えたセイヨウタンポポと開花しているオオハナウドは、周囲に向けて自己主張をしているように見えた。「風よ、ふけ！虫よ、来い！動物よ、来い」と。フキノトウの行く末を探したが、すでに、その片鱗さえも見当たらない。種子をパラシュートに載せて旅たった後であった。季節の移ろいの早いこと。

植物は移動することは出来ない。でも、自分の遺伝子を移動する機会を年に二回持っている。一つは、花の時期。花粉は「遺伝子のカプセル」。風や虫などを利用して雌しべに運んでもらう。そして、花粉親になることが出来る。二つ目は、実りの季節。種子は植物の「生命のカプセル」だ。風・流水・雨滴・虫・鳥・その他の動物など、様々なものを利用する。

「風よ、ふけ！虫よ、来い！動物よ、来い」は、たくましく、したたかに生きる植物たちの声であったように思う。



ヒメヘビイチゴの話

観察路にヒメヘビイチゴが沢山咲いていた。イチゴの名を持っているが、キジムシロ属の植物である。実はイチゴのように赤く肥大しない。図鑑には、瘦果がまとまってつくところある。花がそっくりなヘビイチゴは、ヘビイチゴ属。実は表面が赤い苺果となる。

ヒメヘビイチゴの花は小さく直径は7ミリほど。ヘビイチゴは直径12ミリ以上と図鑑にあった。



オオウバユリの話

森の中で、ひときわ存在感を示し始めたものにオオウバユリがある。立派に茎立ちしている。7月中旬には立派な花を咲かせる。オオウバユリは典型的な1回繁殖型多年草である。種子から育ったオオウバユリは、6~8年の歳月を経て花茎をたてる。

森に入るには、予防策を！

北海道が日本一気温の高い日であった。森の中は虫が多い。顔にまとわりつかれるのには困ってしまった。ネット付きの帽子・手袋着用と対応万端の人がいたが、自分の無防備さに恥じてしまった。

・長袖、長ズボン、防虫スプレー、蚊取り線香などの、予防策を！

観察会案内

6月22日(日) 北広島レクの森観察会 10:00~12:30

集合・解散：北広島レクの森駐車場

「野鳥の声の楽しみ方」

～みなさんは、野山の鳥の声を聞いて、その声を楽しみたいと、思いませんか？～
今回は、その方法についてお互いに共有して、実践の解説に生かしましょう！

I. まずは、鳥の”婚活“について知りましょう！

1. ”求婚“の方法（雄から雌へのアピール法）

- ①色彩によるアピール（例）キビタキ・オオルリ・カモ類など
- ②声（さえずり）によるアピール（例）センダイムシクイ・ウグイス・など
- ③”ドラミング“によるアピール（例）キツツキ類など
- ④その他（ダンスなど）によるアピール

II. 鳥をすばやく見つけたい！と、思いませんか？

1. 鳥の鳴き声には、2つあり。

- ①「地鳴き」と「さえずり」 ※参考（資料Ⅱ）
- ②「地鳴き」とは？
- ③「さえずり」とは？

2. 鳥を見つける方法

- ①鳥の姿から判別（特徴・色彩・大きさ・飛び方・歩き方など） ※詳細は省略
- ②鳥の声から判別

3. どのように”鳴き声“を聞き分けるか？

- ①「聞きなし」を知る（解説・クイズ） 資料一覽 ※参考（資料Ⅱ）
- ②「聞きなし」とは？ ※参考（資料Ⅱ）
- ③「聞きなし」の意外な例

ア 外国人の鳥の「聞きなし」（資料Ⅲ）

イ 高校生（神奈川県）が作った「聞きなし」（資料Ⅲ）

4. 自分で「聞きなし」を作る（参加者にも作らせる）

III. 今回のまとめ

- ・鳥の姿を探すことに満足せず、“鳥の声”にいつも耳を傾けよう。
- ・いつも鳥の声を聞くことを楽しみにする。それが、“何という鳥か？”を知る楽しみにもつながる。
- ・鳥の声の違いに気が付くことは、種の違い、同種の違いにも気が付くことになる。
- ・鳥の声の違いを知る方法を解説で生かし、参加者にそれを提供することは、参加者と解説者の“鳥への親しみ”を共有することになる。
- ・そして、最終的には、植物と動物の種の多様性と、相互のつながりに気が付き、生き物を大切にすることになる。

(資料Ⅱ-2-1) 鳥の声の《聞きなし》1 (北海道の野鳥編)

北海道ボランティア・レンジャー協議会 観察会下見 2014.5.10(道場作成)

I. 「聞きなし」とは？

私たちが鳥の鳴き声を人の声におきかえて覚えること、これを「聞きなし」と言う。鳥には①一年中聞かれる短い地味な声の「地鳴き」と、②繁殖期に鳴く「さえずり」がある。

II. 「地鳴き」と「さえずり」の違い。 その一般的な「聞きなし」。

ウグイス	(地鳴き) チャツチャツ、 (さえずり) ホー、ホケキョ。(法、法華経)
イカル	(地鳴き) キョツキョツ (さえずり) キーコーキー。(お菊二十四)
ホオジロ	(地鳴き) チチツチツ (さえずり) (一筆啓上仕り候)。札幌ラーメン、みそラーメン・塩ラーメン。
メジロ	(地鳴き) チーチー (さえずり) (長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛)。チルチル、ミチル。
シジュウカラ	(地鳴き) チツチツ またはジュクジュク (さえずり) ツツピー、ツツピー。ピース、ピース。(土地、金、欲しいよ)
アオジ	(地鳴き) チツチツ (さえずり) チョッピーチョ。(消費税1円)。ツリ、ツリ、ツリ。 チュツチンチュルリーティーリユリー。
ヒバリ	(地鳴き) ピルルツ、ピルルツ (さえずり) ピーチク、ピーチュクチュク。(天まで昇ろう、天まで昇ろう)
ヤマガラ	(地鳴き) ニーニーニ、ピーピーピ (さえずり) ツツピー、ツツピー。ツー、ツー、ピー。
エナガ	(地鳴き) ジュリ、ジュリ。(地(じい)踏んだ、(地(じい)踏んだ) (さえずり) ツィシシシ またはツリリリ
トラツグミ	(地鳴き) シーツ (さえずり) ヒーヒョー、ピーヒョー。(さびしい、さびしい)
ミソサザイ	(地鳴き) チョツチョツ (さえずり) ピピスクスケスチルチルピョロピョロピリピリリリ・ルリルリ。
ヤブサメ	(地鳴き) チャツチャツ (さえずり) シシシシシ…

(資料Ⅱ-2-2)

Ⅲ.「さえずり」の 聞きなし

- アオバト (さえずり) アオーオ、アオー、アオー。(会お一、会お一)
- センダイムシクイ (さえずり) (焼酎一杯グイー)。(鶴千代君)。ちかれたびー<疲れたでしょう>
- アオバズク (さえずり) ホーホー、ホーホー。(坊主こい、坊主こい)。
- アカハラ (さえずり) キョロン、キョロン。(カモン、カモン、チュー)
- エゾセンニュー (さえずり) トツピンカケタカ。じょっぴん、かけたかく錠をかけたか?>
- オオヨシキリ (さえずり) ギョウギョウシ、ギョウギョウシ。(行々子(ぎょうぎょうし))
- カケス (地鳴き) ジェー(J)、ぎゃあ、ぎゃあ。
- オオルリ (さえずり) ヒーリーリーチチン。
- カイツブリ (さえずり) ケレレレレレレツ、アリヤリヤ。
- カッコウ (さえずり) カッコウ、カッコウ
- カワラヒワ (さえずり) キリキリコロロ、キリリ、ピーン。(手斧手斧(ちょうなちょうな))
- クロジ (さえずり) ホーイチーチーチーヨ。
- キジバト (さえずり) デ、デ、ポッポー。(出、鉄砲)。デデポーポー。(鉄砲、鉄砲)。
- キビタキ (さえずり) チョットコイ、チョットコイ、オーシンツク、オーシンツク。
- キクイタダキ (さえずり) ツチツチツチツチ、チリリリ。
- コマドリ (さえずり) ヒン、カラカラカラ。
- ジュウイチ (さえずり) ジューイチイ、ジューイチイ。(慈悲心、慈悲心)。
- ツバメ (さえずり) (土喰って虫喰って渋〜い)
- ヒガラ (さえずり) ちびり、ちびり。ツピン、ツピン。つめてえ、つめてえ。
- ヒヨドリ (地鳴き) ピーヨ、ピーヨ。
- ピンズイ (さえずり) ピン、ピン、ズイ、ズイ。
- フクロウ (さえずり) (五郎助奉公)。(ぼろ着て奉公)。(糊つけ乾うせ)。
- ホオアカ (さえずり) ヘツピリジッチャ、オチャアガレ<へつぴり老翁、お茶あがれ>
- マヒワ (さえずり) チューン、チューーン。ジューエン、ジューエン<10円、10円>。
- マミジロ (さえずり) キョロン、チー。ちぼいち、ちぼいち。
- ミソサザイ (さえずり) ーびい、二とく、三びい、四なん、五ちいち、ぶんぶく、ちくりんちゃん。
- ムクドリ (地鳴き) ギャー、ギャー、キュル。
- モズ (さえずり) キイー、キイキイキイ。
- ヨタカ (さえずり) キョキョキョキョキョ…
- ルリビタキ (さえずり) ルリビタキだよ、ルリビタキだよ。見にきてくれ。

ルリルリビタキ、ルリビタキ。

「野鳥の声の楽しみ方」

1. 「地鳴き」と「さえずり」の違い(意外なもの)

	(地鳴き)	(さえずり)
ハシブトガラ	チチ、ジージー	チヨチヨチヨチヨ
コガラ	チチ、ジェージェー	ヒツーヒツーヒツー チチョーチチョー
エナガ	ジュリジュリジュリ	特になし
ゴジュウカラ	ツイツイ	フィーフィーフィー
ベニマシコ	ピッポッピッポッ	チュルチー、チュルチュリ、フィフィ

2. 外国人の鳥の「聞きなし」

オオジシギ	(ロシア)	イズビニーチェ (すみません)
シジュウカラ	(イギリス)	tteacher teacher
フクロウ	(アメリカ)	who-o who-o who-o who aye you ?
ニワトリ	(日本)	コケコッコー
	(韓国)	コッキョー・ココ
	(インド)	コック・ロロ

3. 高校生(神奈川県)が作った「聞きなし」

センダイムシクイ	「いじわるしないで、いーつ」・「そんなのずるいよー」
コマドリ	「ひーとりごとー」・「ちょっと待ってよー」
アカハラ	「愚痴 無知 アハハ」・「ちょっと ちょっと なにー」
キジバト	「オードリー、ヘプバーン」
コガラ	「日だって ピースピースピース」

(資料全体の参考文献)

- ① 『愛媛の野鳥 観察ハンドブック はばたき』日本野鳥の会愛媛支部編
(平成4年10月刊)
- ② インターネット検索の資料
- ③ その他の「野鳥図鑑」

ボランティア・レンジャー育成研修会

平成26年度 受講者募集!



北海道には豊かな自然がたくさんあります。この豊かな自然をより多くの人に楽しんでもらい、また自然環境を大切にしてもらうために「ボランティア・レンジャー（自然解説員）」が、各方面で活躍しています。

今年も自然ふれあい交流館や野幌森林公園をフィールドにして「ボランティア・レンジャー」を育成する研修会を開催します。「自然」に興味・関心がある方、自然の中でボランティア活動をやってみたい方など、初心者向けの内容となっていますのでお気軽にご参加下さい。

人と自然との橋渡し役でもある「ボランティア・レンジャー」になりませんか!

◇開催日 平成26年9月26日(金)～28日(日) 3日間の研修会です(雨天決行)

◇場所 自然ふれあい交流館、野幌森林公園

◇内容 26日(金) 自然と楽しむ「アウトドアゲーム」・「ナイトウォッチング」、安全管理のための「救急法」、自然やガイド方法に関する「講演」

27日(土) 自然体験・観察の「プログラム作成と解説方法」、人と自然との関わり方の「観察会」

28日(日) 「プログラムのフィールド発表」など
※詳しいプログラムは裏面に記載しております

◇費用 無料

※宿泊費、現地までの交通費、食事代などは各自負担願います
※各当日は原則、現地集合、現地解散となります
※自然ふれあい交流館(大沢口)の駐車場は無料



◇定員 30名(受付期間:7月1日～8月31日 定員になり次第締め切り致します)

◇対象 3日間通して参加できる方、満18歳以上で自然に興味・関心がある方

◇申込方法 ご希望の方は電話にて下記の必要事項を記入の上FAXでお送りいただくか、お電話で必要事項をお伝えの上、お申し込みください

◇その他 当研修会に受講された方には、受講証と自然解説員のバッヂを交付いたします
また「北海道ボランティア・レンジャー協議会」への入会も可能です(希望者のみ)

主催:自然ふれあい交流館 共催:北海道ボランティア・レンジャー協議会

★お問い合わせ・お申し込み★

野幌森林公園 自然ふれあい交流館 (<http://www.kaitaku.or.jp/nfpvc.htm>)

〒069-0832 江別市西野幌 685-1 電話) 011-386-5832 FAX) 011-388-7058

(キリトリ)

お申込される方は、下記の申込票にご記入いただき送付いただくか、記入内容を電話でお伝えください

ふりがな 氏名	性別 男・女	年齢	才
住所:〒	電話番号: 緊急連絡先(携帯電話等):		
来館手段: 公共交通・自家用車・自転車・徒歩	職業:		

ボランティア・レンジャー育成研修会 2014

～プログラム～

○1日目【9月26日(金)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:20	開講式・オリエンテーション
10:30～12:00	野外実習【アウトドアゲーム】 》自然とのふれあいを楽しむ
12:00～13:00	休憩（昼食）
13:00～16:00	救急法（普通救命講習Ⅰ）
16:10～17:30	講義【自然ガイドで何を伝えるか】 講師：島田明英氏（自然ウォッチングセンター代表）
17:30～17:50	休憩
17:50～19:00	野外実習【ナイトウォッチング】
19:00	終了・解散

○2日目【9月27日(土)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:05	オリエンテーション
10:05～10:25	講義【リスクマネジメント】
10:25～12:20	野外実習【自然観察会】 》ボランティア・レンジャーの活動の実際 》自然体験活動の指導法
12:20～13:10	休憩
13:10～14:00	講義【自然について】
14:00～14:30	講義【プログラム作成と解説方法（導入）】
14:30～18:00	実習【プログラム作成と解説方法】 》模擬ミニ解説の実演 》グループワークによるプログラム作成
18:00	終了

○3日目【9月28日(日)】・・・場所：自然ふれあい交流館、野幌森林公園

時間	内容
9:30～10:00	集合・受付（自然ふれあい交流館）
10:00～10:10	オリエンテーション
10:10～12:00	実習【プログラム作成】 》グループワークによるプログラム作成
12:00～13:00	休憩（昼食）
13:00～15:00	発表【フィールド発表】
15:00～15:30	ふりかえり
15:30～16:00	まとめ・講義 【北海道ボランティア・レンジャー協議会と ボランティアを行うにあたって】
16:00～16:30	閉講式、解散

※天候や主催者側の都合により、プログラムを変更する場合があります

◇持ち物：野外活動に適した服装（長袖・長ズボン）、雨具、昼食・1日目夜の軽食など

◇アクセス：新札幌バスターミナル北レーン10番乗り場よりJR北海道バス「文京台循環線」乗車、
 【文京台南町】下車、徒歩10分

☆お申込みされた方には、開催1ヶ月前を目途に詳細な内容・プログラムなどを送付いたします

指定管理者制度が導入され、一般財団法人北海道開拓の村が、自然ふれあい交流館を管理運営しております

事務局だより

1. 平成25・26年度 運営委員（理事・役員）について

会 長	春日 順雄	役 員
副会長	五十嵐 一夫（研修部 30周年記念事業）	新谷 良一（事務局）
副会長	小林 英世（研修部）	安倍 隆（広報部）
総務部長	三崎 篤	大表 順子（研修部）
会 計	松井 玲子	大藤 幹（研修部）
研修部長	菅 美紀子	熊野 美子（広報部）
広報部長	内山 恭子	グローズ千鶴子（広報部）
事務局長	室野 文男	佐藤 清一（広報部）
監 査	高松 文雄	中林 光司（研修部）
監 査	成田 伸一	宮津 京子（研修部）
		三輪 礼二郎（研修部）
顧 問	川端 功治	
顧 問	佐々木 幸夫	
顧 問	田村 允都	

2. 保険について（札幌市社会福祉協議会の保険に加入）

- ①ボランティア活動保険について（4月15日に加入、加入証を総会時に渡す、それ以外は郵送）
ハガキの希望者について加入しました。Aタイプ
この保険は当会の事業における会員を守るための保険です。
 - ②ボランティア活動等行事用保険 A型（宿泊を伴わない活動）
この保険は当会、主催観察会における一般参加者を守る保険です。
- ※いずれの場合も事故が発生した場合は事務局へ連絡願います。

3. 自然ふれあい交流館との共催観察会の下見における「話題提供」について

下見会の話題提供の開始時間の変更について 10:00 から 9:45 へ変更します。

8月6日（水）9:45～	開拓の村入口前	今村ひろ子さん 「身近な木々」
9月13日（土）9:45～	自然ふれあい交流館	三輪礼二郎さん「植物の進化」
10月15日（水）9:45～	開拓の村入口前	菅美紀子さん「スズメ」
11月8日（土）9:45～	自然ふれあい交流館	宮本健市 「カタツムリ」

オオハンゴンソウ防除へ参加しよう。

野幌森林公園のオオハンゴンソウの防除はボラレンが環境庁へ申請して防除主体になって行うイベントです。平成21年（2009）から始めて今年で6回目になり、遊歩道ではほとんどオオハンゴンソウの繁茂を見る景色は無くなりました。しかし、まだ林内のオオハンゴンソウは防除しきれっていません、完璧には防除できないにしてもボラレンの環境保全の精神を維持する活動として参加しましょう。

平成26年7月27日（日） 9:30～12:30

集合場所 大沢口 自然ふれあい交流館 当日連絡先 自然ふれあい交流館 011-386-5832

編集後記

- ※ 表紙絵の「ユリノキ」はグローズ千鶴子さんが描いてくれました。
ユリノキは彼女にとって「6月だね」と教えてくれる花だそうです。札幌では大通公園や北大構内、森林総合研究所にあるのが有名ですがもともとは東京・新宿御苑の中庭にあるユリノキが日本に渡来した初代であるとのこと。
- ※ 定期総会前に谷口勇五郎さんが「自然ガイドをしていること」と題して講演して下さいました。実践に根差したお話は心に響くものがありました。
- ※ 「自然観察 NOW」NO.1 は田村允郁さん、NO.2 は道場 優さん、NO.3 は春日順雄さんの執筆です。
- ※ 今号に掲載出来ませんでした原稿は次号に繰り越しいたしますのでご了解ください。
- ※ 次号、秋季号は10月末の発行予定です。今号よりA4判となりました。原稿はメールまたは郵便で下記まで送付お願いいたします。
Eメール ukhisui@kke.biglobe.ne.jp
〒 069-0841
江別市大麻元町164-39 内山恭子
- ※ 今年度よりエゾマツの発行は広報部の安倍、内山、熊野、グローズ、佐藤の5名で担当いたします。印刷は他の役員の方々にもお手伝いいただいています。
- ※ ご意見、ご希望など忌憚のないところでお知らせください。お願いいたします。

『エゾマツ』 夏季号 109号

2014年6月26日発行 会長 春日順雄